

第2回 東京都介護現場革新会議

介護テクノロジーに関する国等の動向

～ 利用者のニーズを踏まえた製品開発と適切かつ安全な利用の推進 ～

令和7年9月16日(火) オンライン会議

公益財団法人テクノエイド協会
企画部 五島清国

主な内容

- テクノエイド協会の概要
- 少子高齢化の現状、今後の展開
- 介護テクノロジー等に関する施策の動向
- ニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発と安全な利用



公益財団法人テクノエイド協会

福祉用具の開発及び普及の推進に寄与することを目的とした法人

- 1987年 3月 財団法人として厚生省より設立認可
- 1988年 4月 義肢装具士法による指定試験機関
- 1993年10月 福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律の施行
- 2011年 7月 公益財団法人として内閣府より認定

(主な業務内容)

1. 福祉用具・介護テクノロジーの開発・普及に関する事業
2. 福祉用具に関する調査・研究及び情報の収集・提供に関する事業
3. 福祉用具の臨床評価に関する事業
4. 認定補聴器技能者や福祉用具プランナー等、人材養成に関する事業
5. 義肢装具士の国家試験の実施
6. その他

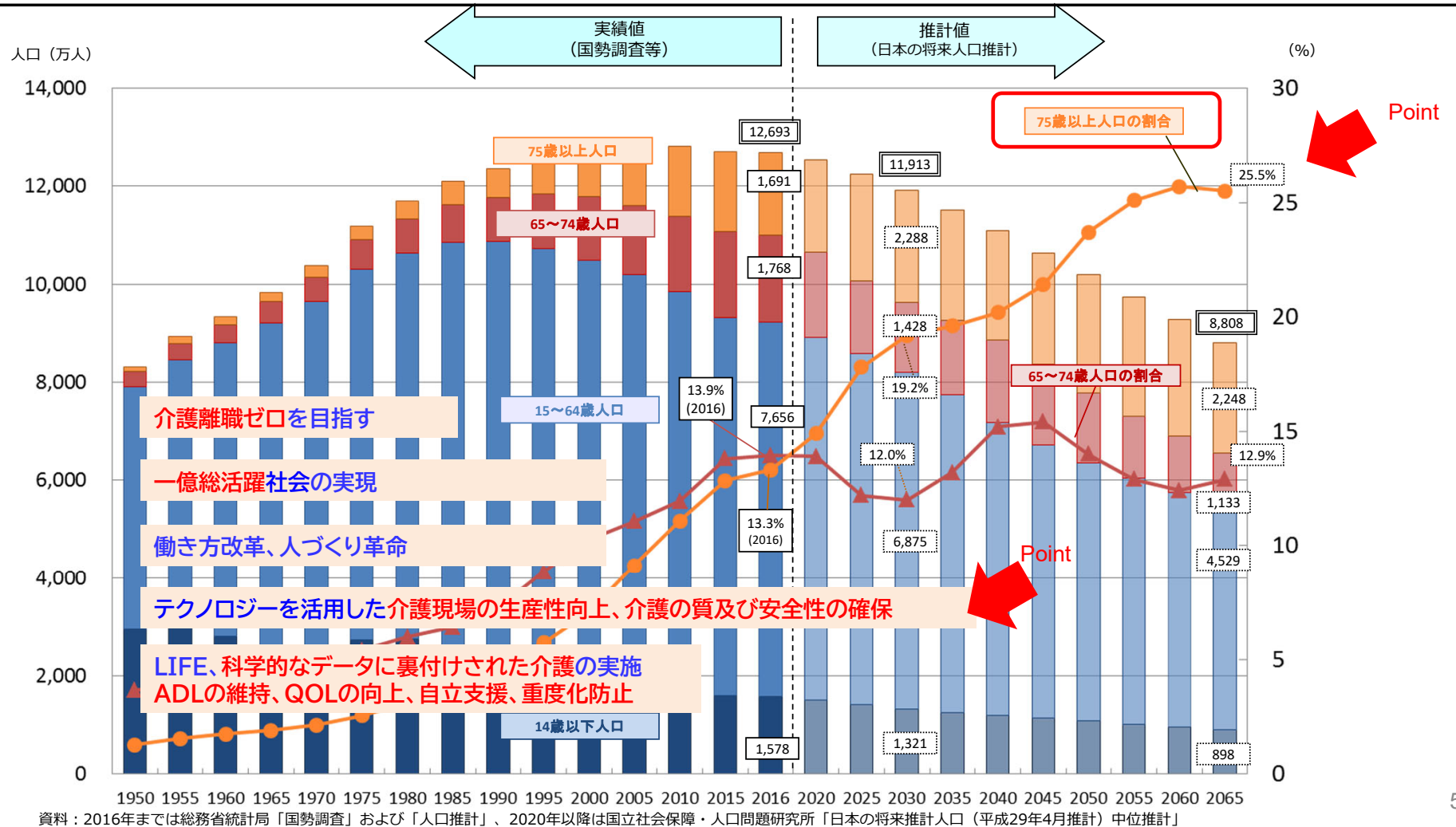
主な内容

- テクノエイド協会の概要
- 少子高齢化の現状、今後の展開
- 介護テクノロジー等に関する施策の動向
- ニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発と安全な利用



少子高齢化の進展、求められる対応策

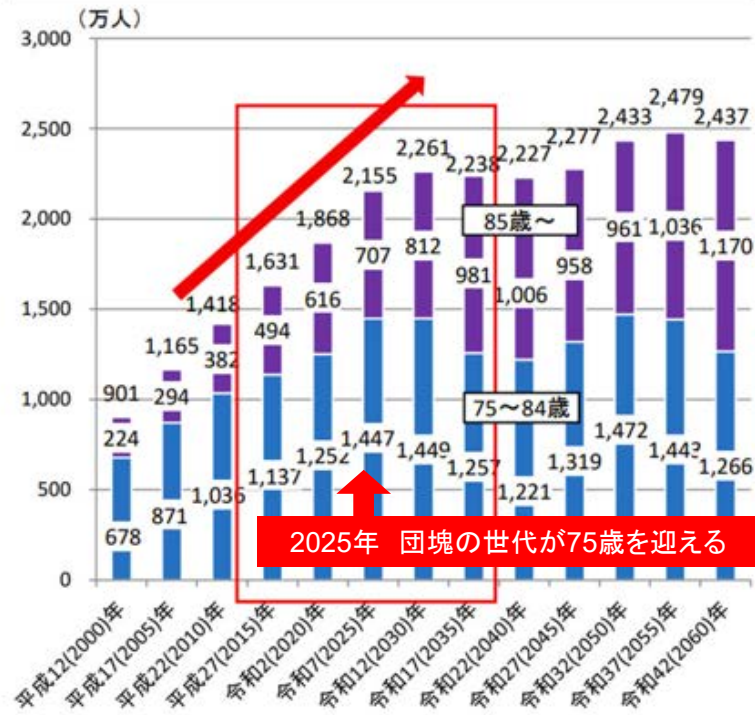
○ 今後、日本の総人口が減少に転じていくなか、**高齢者(特に75歳以上の高齢者)の占める割合は増加**していく。



今後の介護保険をとりまく状況(2)

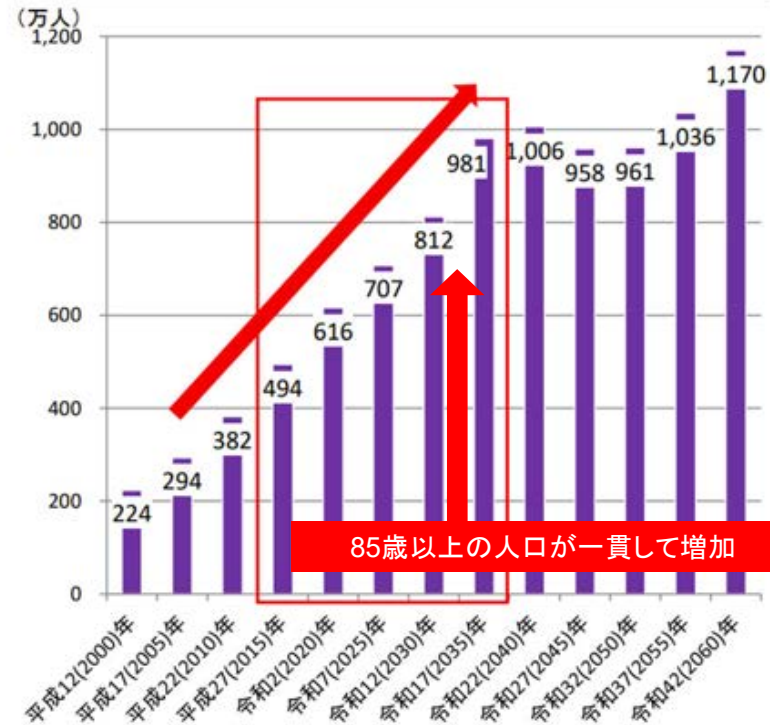
75歳以上の人口の推移

○75歳以上人口は、介護保険創設の2000年以降、急速に増加してきたが、2015年から2025年までの10年間で、急速に増加。



85歳以上の人口の推移

○85歳以上の人口は、2015年から2025年までの10年間で、75歳以上人口を上回る勢いで増加し、2035年頃まで一貫して増加。



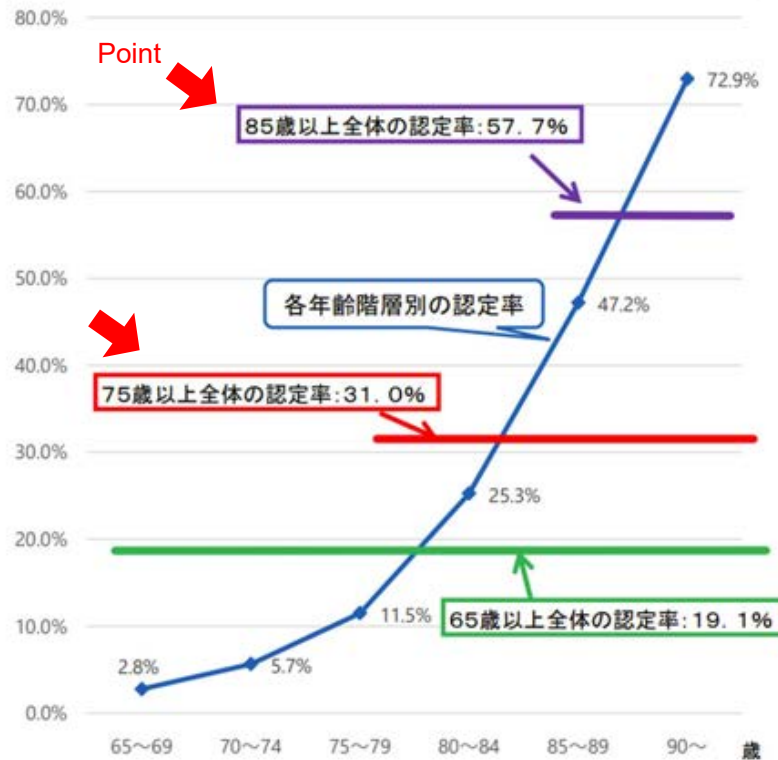
Point

(資料)将来推計は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(令和5(2023)年4月推計)出生中位(死亡中位)推計
2020年までの実績は、総務省統計局「国勢調査」(年齢不詳人口を按分補正した人口)

今後の介護保険をとりまく状況(3)

年齢階級別の要介護認定率

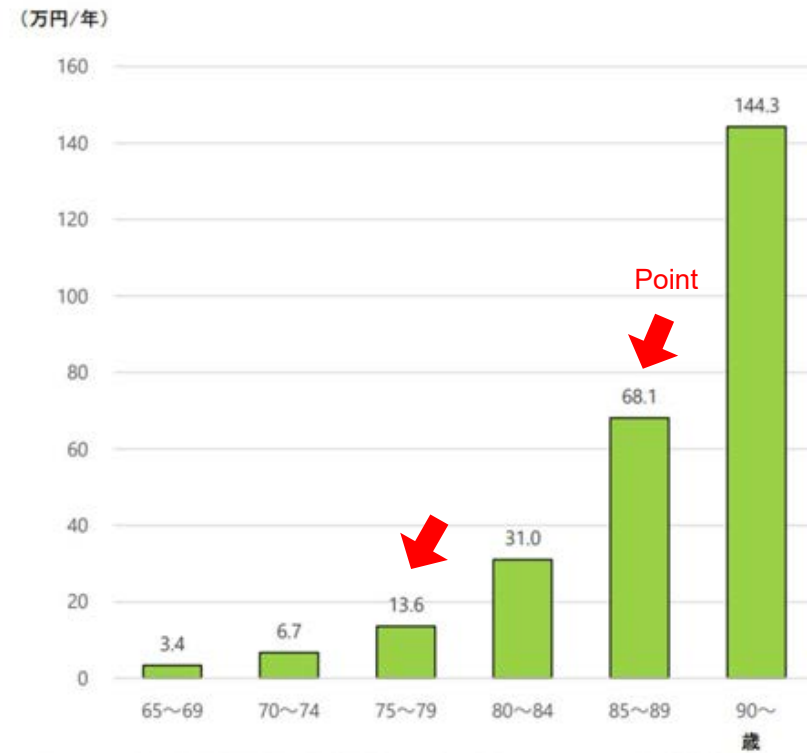
○要介護認定率は、年齢が上がるにつれ上昇。特に、85歳以上で上昇。



出典：2023年9月末認定者数（介護保険事業状況報告）及び2023年10月1日人口（総務省統計局人口推計）から作成
注）要支援1・2を含む数値。

年齢階級別の人口1人当たりの介護給付費

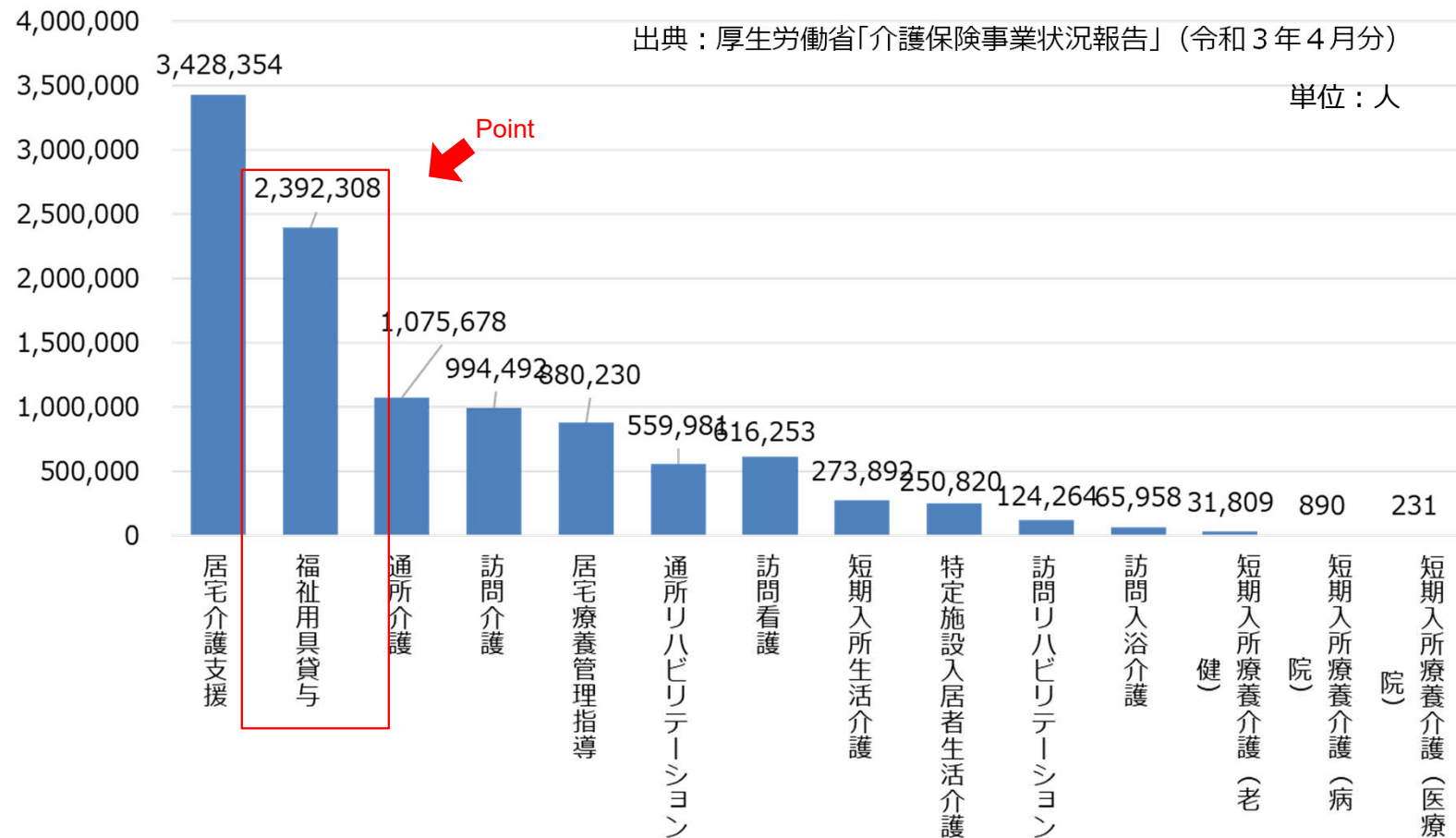
○一人当たり介護給付費は85歳以上の年齢階級で急増。



出典：2023年度「介護給付費等実態統計」及び2023年10月1日人口（総務省統計局人口推計）から作成
注）高額介護サービス費、高額医療合算介護サービス費は含まない。
補足給付に係る費用は、サービスごとに年齢階級別受給者数に応じて按分。

介護予防・居宅介護サービス受給者数(要支援1～要介護5)

○ 介護予防・居宅介護サービス別の受給者数をみると、福祉用具貸与は居宅介護支援に次いで多く、約239万人となっている。



介護保険給付に係る総費用等における提供サービスの内訳(令和5年度) 金額

		費用額(百万円)	請求事業所数
居宅	訪問介護	1,154,797	35,468
	訪問入浴介護	56,965	1,618
	訪問看護	378,804	15,866
	訪問リハビリテーション	56,352	5,528
	通所介護	1,317,079	24,586
	通所リハビリテーション	386,460	7,919
	福祉用具貸与	380,706	7,187
	短期入所生活介護	425,605	10,757
	短期入所療養介護	49,105	3,573
	居宅療養管理指導	175,712	49,925
	特定施設入居者生活介護	659,389	6,193
	計	5,040,972	168,620
居宅介護支援		535,683	36,459
地域密着型	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	90,792	1,311
	夜間対応型訪問介護	3,839	181
	地域密着型通所介護	415,854	18,432
	認知症対応型通所介護	75,922	2,851
	小規模多機能型居宅介護	281,328	5,749
	看護小規模多機能型居宅介護	74,155	1,191
	認知症対応型共同生活介護	759,772	14,504
	地域密着型特定施設入居者生活介護	22,714	378
	地域密着型介護老人福祉施設	248,781	2,526
	計	1,973,155	47,123
施設	介護老人福祉施設	2,071,272	8,476
	介護老人保健施設	1,353,062	4,182
	介護療養型医療施設	18,425	109
	介護医療院	222,051	852
計		3,664,809	13,619
合計		11,214,619	265,821

3,807億



Point

福祉用具貸与サービス
全体の3.4%

Point



11兆2,146億

【出典】厚生労働省「令和5年度介護給付費等実態統計」

(注1) 総費用は保険給付額と公費負担額、利用者負担額(公費の本人負担額を含む)の合計額。

介護予防サービスを含まない。特定入所者介護サービス(補足給付)、地域支援事業に係る費用は含まない。また、市区町村が直接支払う費用(福祉用具購入費、住宅改修費など)は含まない。

(注2) 介護費用額は、令和5年度(令和5年5月～令和6年4月審査分(令和5年4月～令和6年3月サービス提供分))、請求事業所数は、令和6年4月審査分である。

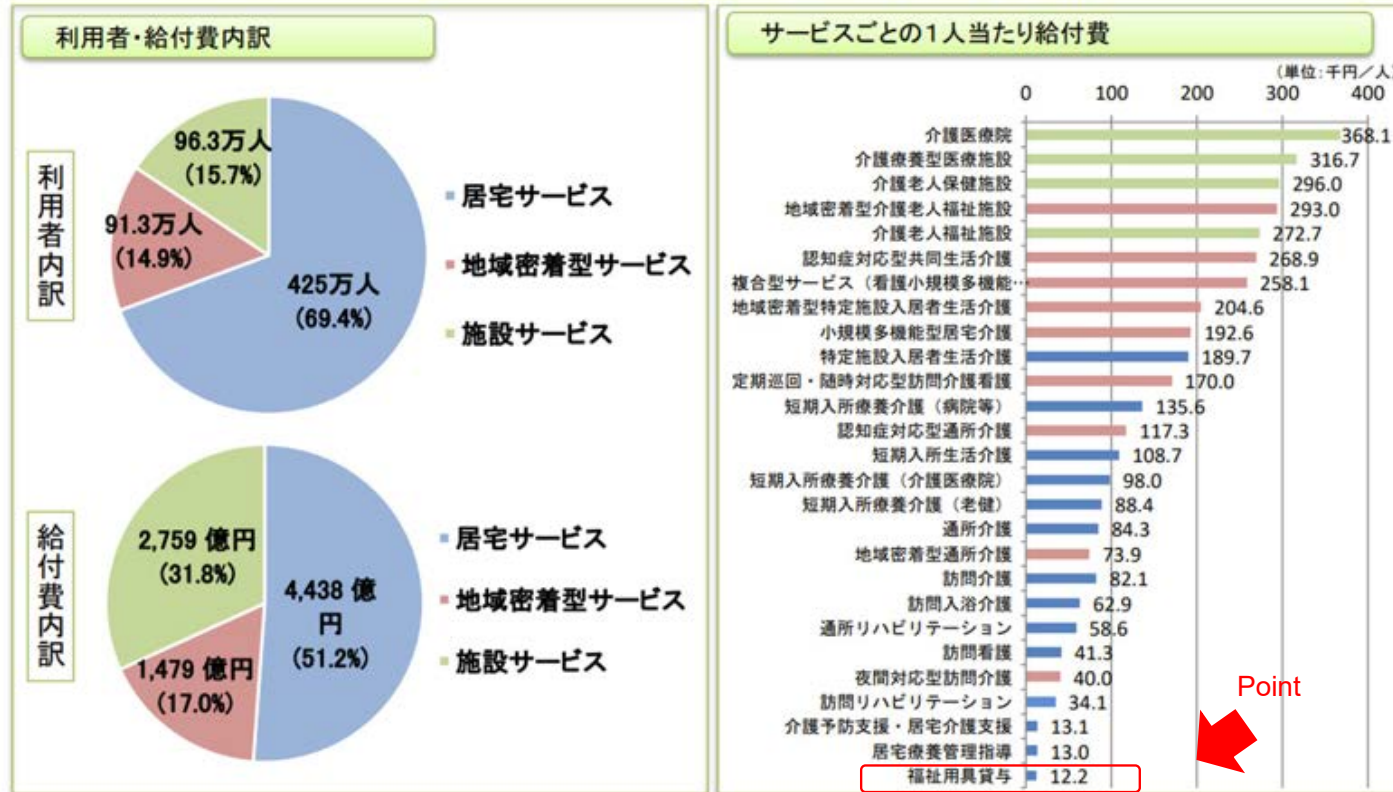
(注3) 令和5年度(令和5年5月～令和6年4月審査分(令和5年4月～令和6年3月サービス提供分))の特定入所者介護サービス(補足給付)は約2,341億円。

(注4) 端数処理等の関係で、合計が一致しない場合がある。

(注5) 請求事業所数は延べ数である。

介護保険給付の給付費のサービス種類別の内訳

サービス利用者のうち、居宅・地域密着型サービスは約84%、施設サービスは約16%であるが、給付費においては、居宅・地域密着型サービスは約68%、施設サービスは約32%となっている。



出典:「介護保険事業状況報告」(令和6年3月サービス分)

(注)給付費は、利用者負担額並びに高額介護サービス費、高額医療合算サービス費及び補足給付を除く。

高齢者や障害者を取りまく現状、必要とされる施策について

高齢者

- 要介護者の増加
- 認知症高齢者の増加
- 高齢者世帯や高齢者の独居が増加
- ADL(日常生活動作)やQOL(生活の質)の維持・向上 など

Point



障害者

- 高齢化
- ニーズの多様化・複雑化、高齢化(知的や精神障害の増加)
- 活動や参加に対する理解、支援策の拡充
- 自立支援機器等、利用可能なインフラの整備 など

介護者

- 人材不足(海外からの受け入れ)
- 肉体的、精神的な負担の軽減
- 楽しく・働きやすい、職場・労働環境の構築
- 福祉用具・介護テクノロジーの活用を促す教育 など

Point



政府・関係機関

- 他の分野で利用されている「技術」や「ノウハウ」の活用
- RRI(ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会)の発足(2015年)
- デジタル庁の設置(2021年)

Point

デジタル化の推進



- ロボットやセンサー、ICTなど活用、医療と介護、リハビリのデータ連携
- データの集約、共有、安全管理(機密情報の保護、プライバシーの確保、利用料の負担)
- 新たな基準、規制の緩和(緩和と強化)
- 製品のIoT化、AIの活用
- テクノロジー活用人材の養成(デジタル中核人材の養成など)

主な内容

- テクノエイド協会の概要
- 少子高齢化の現状、今後の展開
- 介護テクノロジー等に関する施策の動向
- ニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発と安全な利用

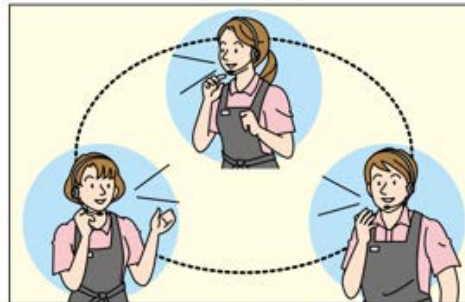


介護分野におけるテクノロジーの活用例

スマートフォンを活用した
記録・入力の省力化



インカムを活用した
コミュニケーションの効率化



移乗支援機器を活用した
従事者の負担軽減



センサーを活用した見守り
による省力化・ケアの質向上



センサーを活用した排泄予測
による省力化・ケアの質向上

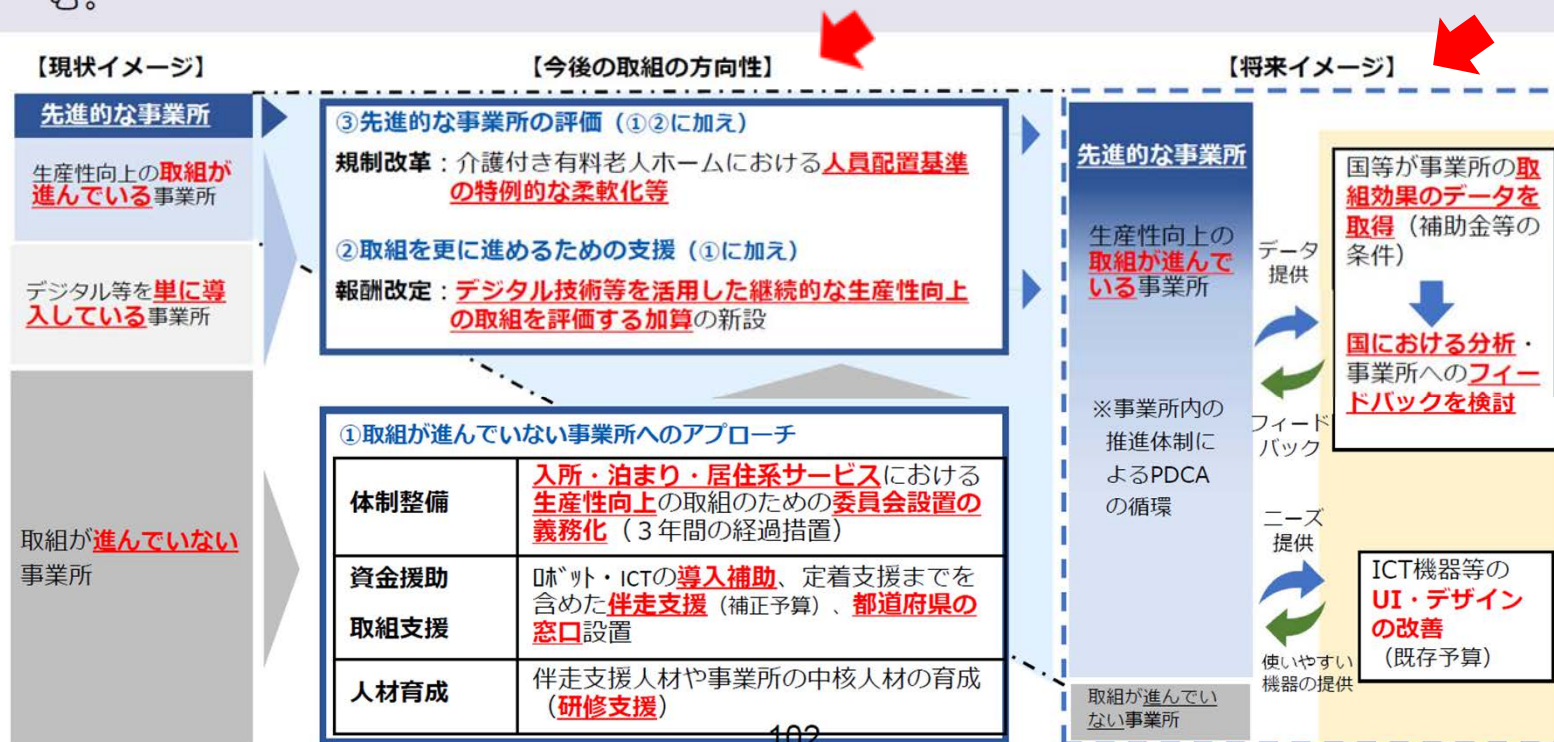


情報の収集・蓄積・活用の
円滑化によるケアの質向上



介護分野におけるデジタル行財政改革の方向性

- デジタル技術の導入支援や相談窓口の設置など様々な支援を行っており、生産性向上が進む事業所がある一方で、取組が幅広く普及しているとは言えない状況である。
- このため、①補正予算を含む財政支援、②介護報酬改定において生産性向上の取組を促進、③人員配置基準の柔軟化等で先進的な取組を支援、④明確なKPIでPDCAサイクルを回すことなどに取り組む。



介護現場の生産性向上と介護テクノロジーの活用

介護現場における生産性向上とは、介護ロボット等のテクノロジーを活用し、業務の改善や効率化等を進めることにより、職員の業務負担の軽減を図るとともに、業務の改善や効率化により生み出した時間を直接的な介護ケアの業務に充て、利用者と職員が接する時間を増やすなど、介護サービスの質の向上にも繋げていくこと

上位目的
理念・ビジョン
経営目標達成
経営課題改善

介護サービスの質の向上

人材の定着・確保

介護の価値を
高める

働く人のモチベーションの向上
楽しい職場・働きやすい職場づくり

業務改善に
取り組む意義

人材育成

チームケア
の質向上

そ情報共有
の効率化

業務改善を
実現する
インフラ・ツール

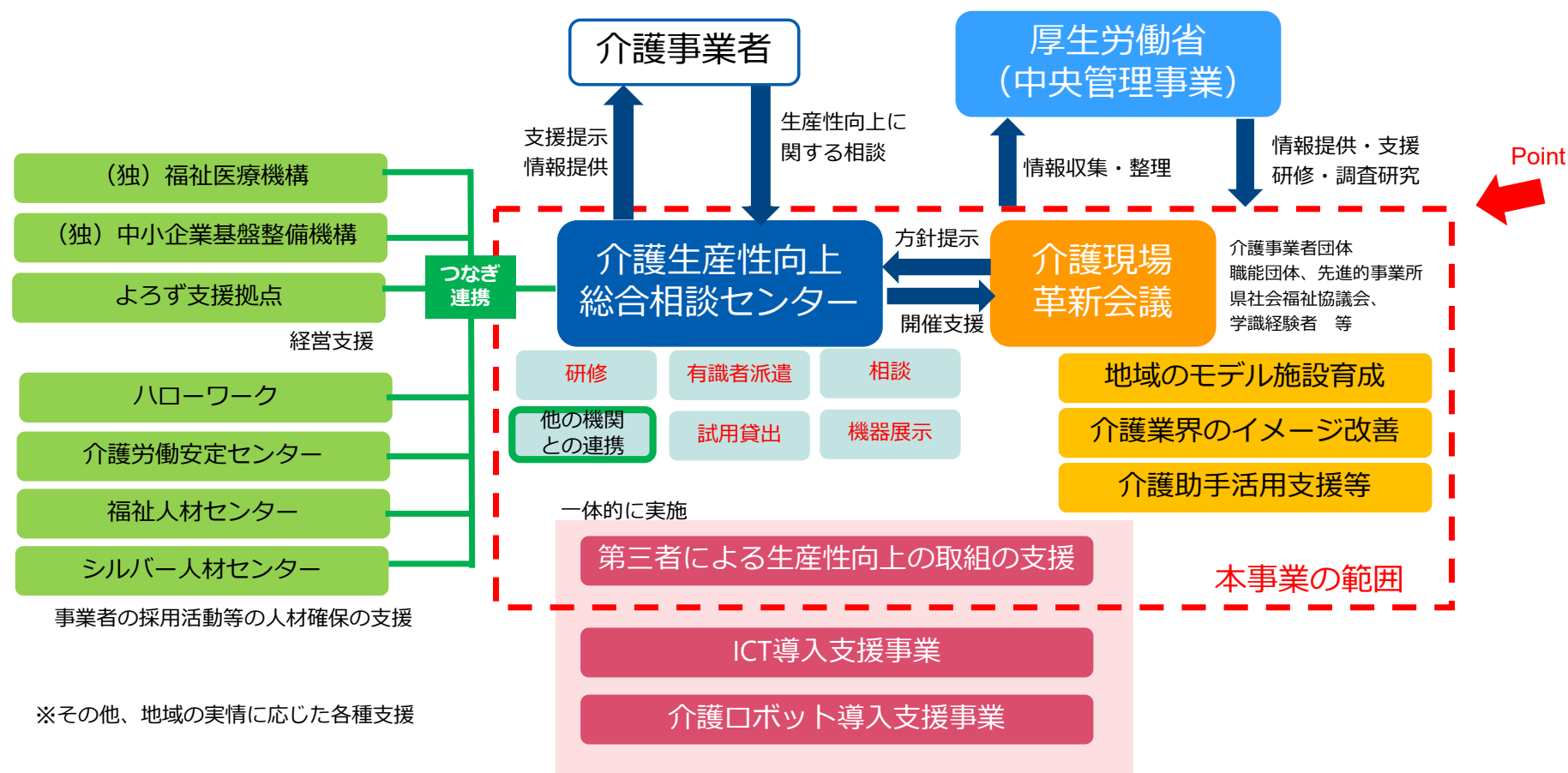
福祉用具・介護テクノロジー、ICT等

Point

テクノロジー活用
個別ケアの実現
業務の分担



介護生産性向上推進総合事業（具体的な事業イメージ）



介護テクノロジー開発等加速化事業 (旧：介護ロボット開発等加速化事業)

老健局高齢者支援課 (内線3875)

令和7年度当初予算案 3.2億円 (4.9 億円) ※ () 内は前年度当初予算額 ※令和6年度補正予算額 5.8億円

1 事業の目的

- 介護現場の業務効率化を進めるため、テクノロジーの活用を推進しているところであるが、このためには、介護現場に対する導入資金の支援だけでなく、介護現場におけるテクノロジーへの理解を促進し、開発企業が介護テクノロジー市場に参入しやすい環境を整備する必要がある。
- 本事業では(1)R6年度補正予算において実施するCARISO (CARE Innovation Support Office) を運営し、研究開発から上市に至るまでの各段階で生じた課題等に対する総合的な支援を行うとともに、(2)介護ロボットに関するフォーラム等による情報発信等を行う。

2 事業の概要・スキーム、実施主体等

(1) 介護テクノロジーの開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業

- 相談窓口の整理 (全国15→10箇所)
- 地域における介護生産性向上総合相談センター (基金事業)の支援事業(中央管理事業)
- 介護現場における実証フィールドの提供

(2) 福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

- 介護ロボット等に係る生産性向上の取組の情報発信等を行う。

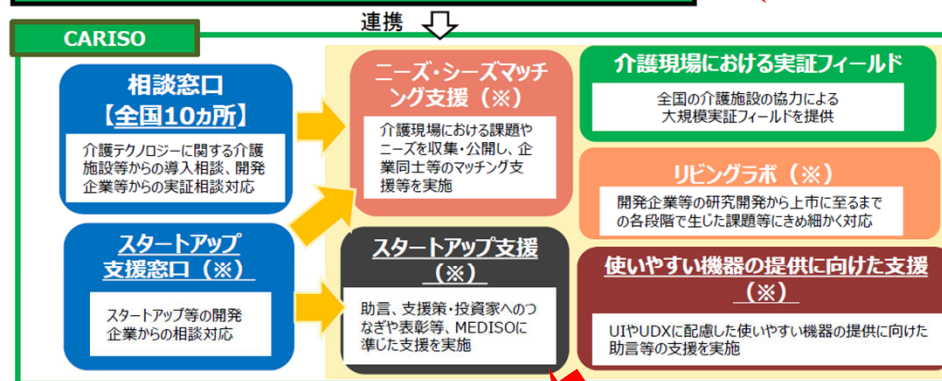
- ・ 下線は令和7年度拡充分
- ・ 右記の(※)書き事業は令和6年度補正予算により実施

実施主体



介護テクノロジーの開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業

中央管理事業：介護生産性向上総合相談センター (基金事業) の運営支援



福祉用具・介護ロボット実用化支援事業

プラットフォーム事業の機能を補完し、介護ロボットの開発・普及の各段階にて必要となる各種支援を実施

- ① 地域フォーラムの開催
- ② 介護ロボット開発企業連絡会・全国フォーラムの実施
- ③ 介護ロボット開発・導入の助成金調査、介護ロボット選定の選定に資する表示項目の策定・周知

効果測定事業 (※)

大規模実証

実証フィールド施設等の協力を得て、介護ロボット導入の大規模実証を実施、検証

Point

3つの事業

令和7年度当初予算案 地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分）97億円の内数（97億円の内数）※（）内は前年度当初予算額

1 事業の目的

- 介護人材の確保が喫緊の課題とされる中で、介護ロボットやICT等のテクノロジーを活用し、業務の改善や効率化を進めることにより、職員の業務負担軽減を図るとともに、生み出した時間を直接的な介護ケアの業務に充て、介護サービスの質の向上にも繋げていく介護現場の生産性向上を一層推進していく必要がある。
- 職場環境の改善等に取り組む介護事業者がテクノロジーを導入する際の経費を補助し、生産性向上による働きやすい職場環境の実現を推進する。

※下線部は令和7年度までの拡充分。太字は更に今回変更する部分。

2 補助対象

【介護ロボット】

- 「介護テクノロジー利用における重点分野」（令和7年度より改定）に該当する介護ロボット（カタログ方式を導入）

【ICT】

- 介護ソフト、タブレット端末、インカム、クラウドサービス 業務効率化に資するバックオフィスソフト（転記等の業務が発生しないこと、環境が実現できている場合に限る）等

【パッケージ型導入】

- 見守り機器等の複数のテクノロジーを連動することで導入する場合に必要な経費

【その他】

- 第三者による業務改善支援等にかかる経費

※養護老人ホーム等を対象に追加

3 補助要件等

介護ロボットのパッケージ導入モデル、ガイドライン等を参考に、課題を抽出し、生産性向上に資する業務改善計画を提出の上、一定の期間、効果を確認できるまで報告すること

第三者による業務改善支援又は研修・相談等による支援を受けること

（入所・泊まり・居住系）利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会を設置すること

（在宅系）令和7年度内にケアプランデータ連携システムの利用を開始すること

【介護ロボット】

区分	補助額	補助台数
○移乗支援	上限100万円	必要台数
○入浴支援		
○上記以外	上限30万円	

【ICT】

補助額	補助台数
● 1～10人 100万円 ● 11～20人 150万円 ● 21～30人 200万円 ● 31人～ 250万円 ※職員数により変動しない場合は一律250万円	必要台数

【パッケージ型導入】

補助額	補助台数
上限400～1,000万円	必要台数

補助率 以下の要件を満たす場合は3/4を下限（これ以外の場合は1/2を下限）

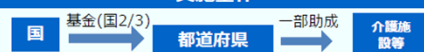
共通要件	- 職場環境の改善を図り、収支が改善がされた場合、職員賃金への還元することを導入効果報告に明記 - 第三者による業務改善支援を受けること
介護ロボット	- 見守り、インカム・スマートフォン等のICT機器、介護記録ソフトの3点を活用すること（入所・泊まり・居住系に限る） - 従前の介護職員等の人員体制の効率化を行うこと - 利用者のケアの質の維持・向上や職員の負担軽減に資する取組を行うことを予定していること
ICT	（在宅系）・ケアプランデータ連携システムを利用し、かつデータ連携を行う相手となる事業所が決定していること （それ以外）以下のいずれか - LIFE にデータを提供している又は提供を予定していること - 文書量半減を実現させる導入計画となっていること
パッケージ型導入	介護ロボット・ICTの要件をいずれも満たすこと。ただし、ICT（それ以外）に記載の要件は全て満たすこと

35

4 実施主体、実績

事業	R1	R2	R3	R4
介護ロボット導入支援事業（※1）	1,813	2,297	2,720	2,930
ICT導入支援事業（※2）	195	2,560	5,371	5,075

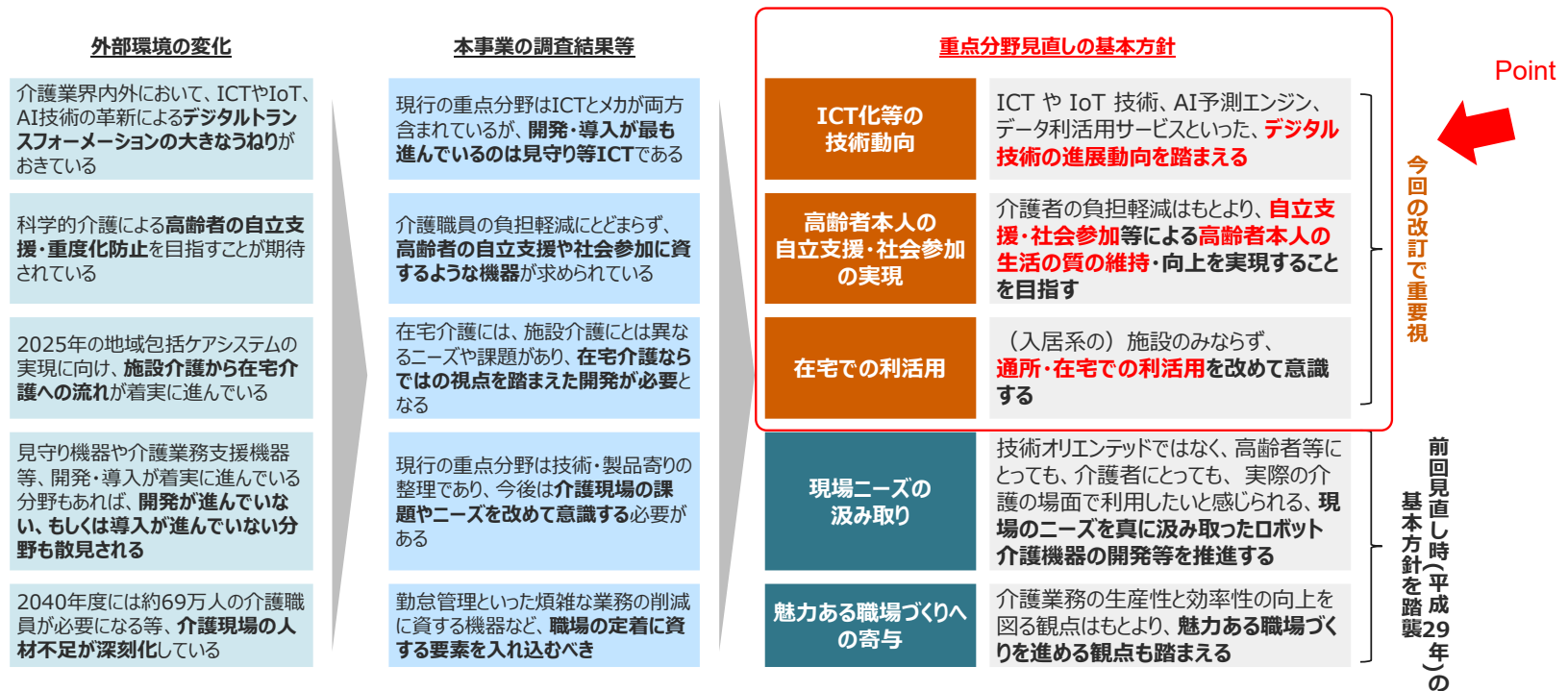
実施主体



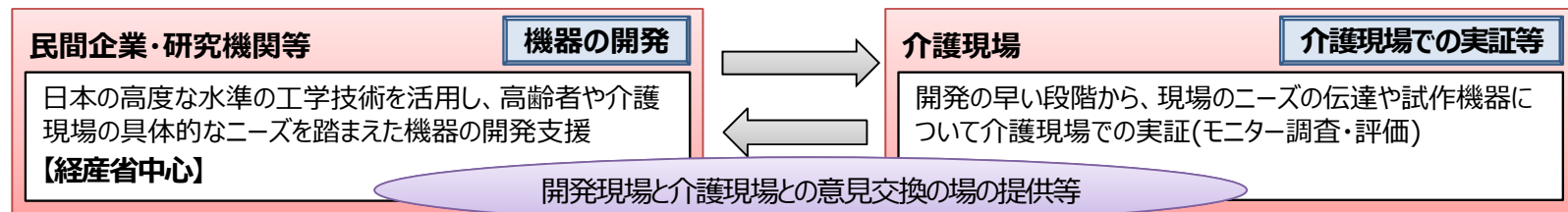
重点分野見直しの基本方針について



- 外部環境の変化と調査結果等を踏まえた基本方針を踏まえ、議論を行った
- 「ICT化等の技術動向」「高齢者本人の自立支援・社会参加の実現」「在宅での利活用」の観点を重視



介護テクノロジー利用の重点分野（2025年度より運用開始）



移乗支援 装着 介助者のパワーアシストを行う装着型の機器 	移動支援 屋外 高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器 	排泄支援 排泄予測・検知 排泄を予測又は検知し、排泄タイミングの把握やトイレへの誘導を支援する機器 	見守り・コミュニケーション 見守り（施設） 介護施設において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム 	介護業務支援 介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等への介護サービス提供に関わる業務に活用することを可能とする機器・システム
非装着 介助者による移乗動作のアシストを行う非装着型の機器 	屋内 高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器 	排泄物処理 排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ 	見守り（在宅） 在宅において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム 	新規 機能訓練支援 介護職等が行う身体機能や生活機能の訓練における各業務（アセスメント・計画作成・訓練実施）を支援する機器・システム
入浴支援 入浴におけるケアや動作を支援する機器 	装着 高齢者等の外出等をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器 	動作支援 ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器 	コミュニケーション 高齢者等のコミュニケーションを支援する機器 	新規 認知症生活支援・認知症ケア支援 認知機能が低下した高齢者等の自立した日常生活または個別ケアを支援する機器・システム
				新規 食事・栄養管理支援 高齢者等の食事・栄養管理に関する周辺業務を支援する機器・システム

機能訓練支援

新規追加

介護職等が行う身体機能や生活機能の訓練における各業務(アセスメント・計画作成・訓練実施)を支援する機器・システム

(定義)

- 高齢者等の生活機能の維持・向上を行い、要介護度の維持・改善のために、介護職等が行う身体機能や生活機能の訓練における業務を支援する機器・システムとする。
- 訓練におけるアセスメント・計画作成・訓練実施の一連の業務の一部、もしくは全体を支援することにより介護サービスの質の向上とともに、職員の負担軽減等が図られる機器・システムとする。
- 収集された情報は、介護記録システムやケアプラン作成支援ソフト、科学的介護情報システム(LIFE)等と連携可能(介護記録システムから科学的介護情報システム(LIFE)と連携することも含む)であれば、加点評価する。
- 収集された情報が、介護職や家族に共有され、訓練の実施状況や効果がフィードバックされるものであれば、加点評価する。
- 収集された情報が、医療職(リハビリテーション専門職や医師等)に共有され、効果的な訓練の実施が期待されるものであれば、加点評価する。



厚生労働省ホームページ:「介護テクノロジー利用の重点分野」の定義から引用

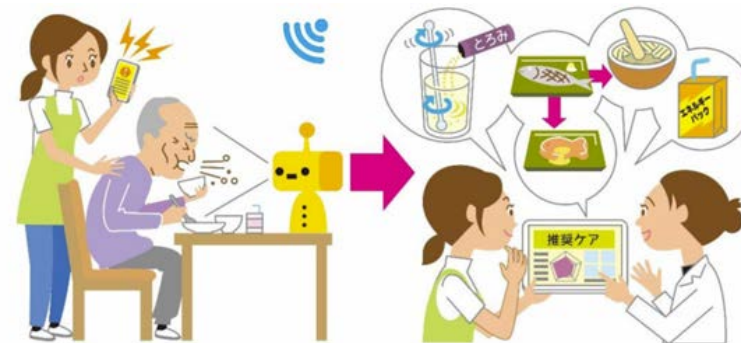
食事・栄養管理支援

新規追加

高齢者等の食事・栄養管理に関する周辺業務を支援する機器・システム

(定義)

- 誤嚥を検知する機器・システムまたは栄養管理を支援する機器・システムとする。それらは以下の機能を持ち、介護サービスの質の向上とともに、職員の負担軽減等が図られるものとする。
 - ✓ 誤嚥を検知する機器・システムは、高齢者等の誤嚥発生や誤嚥リスクを検知し、通知により介護従事者等の支援を行い、かつ、情報・データの蓄積ができるものとする。
 - ✓ 栄養管理を支援する機器・システムは、高齢者等の食事摂取内容等を把握し、情報・データの蓄積ができるものであり、かつ高齢者等の特有の課題(低栄養等)を把握するものとする。
- 収集された情報は、介護記録システムやケアプラン作成支援ソフト、科学的介護情報システム(LIFE)等と連携可能(介護記録システムから科学的介護情報システム(LIFE)と連携することを含む)であれば、加点評価する。
- 収集された情報が、管理栄養士や介護職員等の多職種に共有され、栄養改善に資する食事の提供や栄養管理業務の効率化が期待されるものであれば、加点評価する。



重点分野のイメージ

厚生労働省ホームページ:「介護テクノロジー利用の重点分野」の定義から引用

認知症生活支援・認知症ケア支援

認知機能が低下した高齢者等の自立した日常生活または個別ケアを支援する機器・システム

(定義)

- 認知機能が低下した高齢者等の自立した日常生活または個別ケアを支援する機器・システムとする。それらは以下の機能を持つものとする。
 - ✓ 高齢者等の認知機能の低下による日常生活のしづらさを解消し、高齢者等が操作しやすい工夫や介助者に情報共有される機能を持ち、日常生活の自立性の向上を支援するもの。なお、認知機能が低下した高齢者等の支援に特化したものとする。
 - ✓ 認知機能が低下した高齢者等の認知機能、生活環境、表情等の情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の個々の特性に合わせた介護サービス提供を支援する機能を持ち、介護サービスの質の向上とともに、職員の負担軽減等が図られることを支援するものとする。
- 収集された情報は、介護記録システムやケアプラン作成支援ソフト、科学的介護情報システム(LIFE)等(介護記録システムから科学的介護情報システム(LIFE)と連携することも含む)と連携することが可能であれば、加点評価する。
- 収集された情報が、介護支援専門員や地域包括支援センターも含む多職種に共有され、個々の特性に合わせた介護サービス提供を支援することが可能であれば、加点評価する。



厚生労働省ホームページ:「介護テクノロジー利用の重点分野」の定義から引用

見守り支援、利用者データの共有化

～ データの蓄積・記録、共有、活用 ～

- ## ○シルエット画像等で状態確認

- はみ出し・起き上がり・離床等を検知

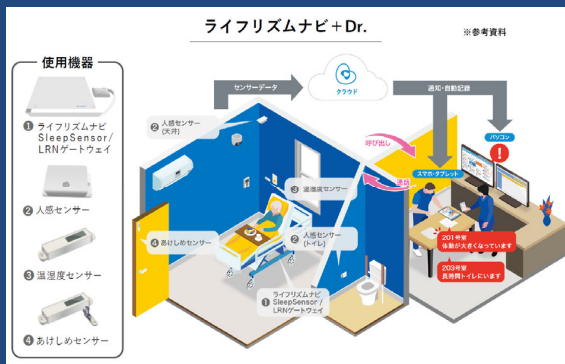
- ## ○検知前後の動画記録

- 暗い場所でも利用可

- ## ○非接触

- ## ○センサの移動が簡単

製品のIoT化



☆介護記録やナースコール等とのデータ連携

在宅介護のDX化(行政と民間事業者が連携)

- ◎危険・予後予測、新型コロナウイルス対応
- ◎生活リズムの見える化、ゆるい見守り
- ◎情報の共有化(家族やサービス提供者) 他

クラウド、AI



ヘルスケアデータの収集、活用、運動プログラムの生成

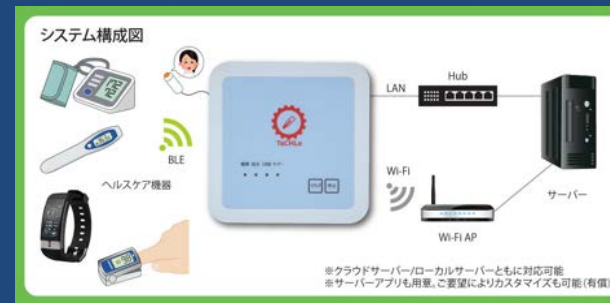
プラットフォームにて一元管理

- ◎バイタルデータの収集
- ◎記録、Bluetoothによる送信
- ◎クラウドによるデータ管理
- ◎プラットフォーム化
- ◎安心・安全

バイタルウォッチ



ヘルスケアゲートウェイ



運動プログラムの自動作成

- ◎体力測定結果により運動プログラムを自動作成
- ◎科学的介護情報システム(LIFE)にデータ連携

スマートフォン



計画作成



在宅高齢者における見守り支援

～ 家族とのつながり・自立支援、生活機能の維持・向上 ～

自立支援に資する在宅介護のDX

◎家族や地域とのつながり
◎緊急時や非常時の対策

◎安心・安全、自立支援、重度化の予防
◎仕事の継続 など

テレビを活用

介護が変わる もっと手軽に 簡単に! 家庭のテレビで“オンライン見守り”

テレビ電話 ami
(amiのaは安心 mは見守る iはいつでも)

テレビ電話/3者通話
服薬/健康管理
広報配信
緊急通報
見守りカメラ

テレビ電話 ami が取り組むべき課題

- 高齢者の社会的孤立
- フレイル進行の懸念
- 自立支援への弊害
- 認知症予防の対応低下
- 介護者の負担軽減

テレビだから 大画面・大音量

在宅高齢者

すべてがつながる

- 離れて暮らす家族
- 行政福祉課
- 介護事業所
- 医療かかりつけ医

ami本体

緊急通報ボタン連携

家族・地域等の繋がり・プラットフォーム

腕時計を活用

今どこ? 無理しないでね。

体温測定 通話もできる

居場所もわかる

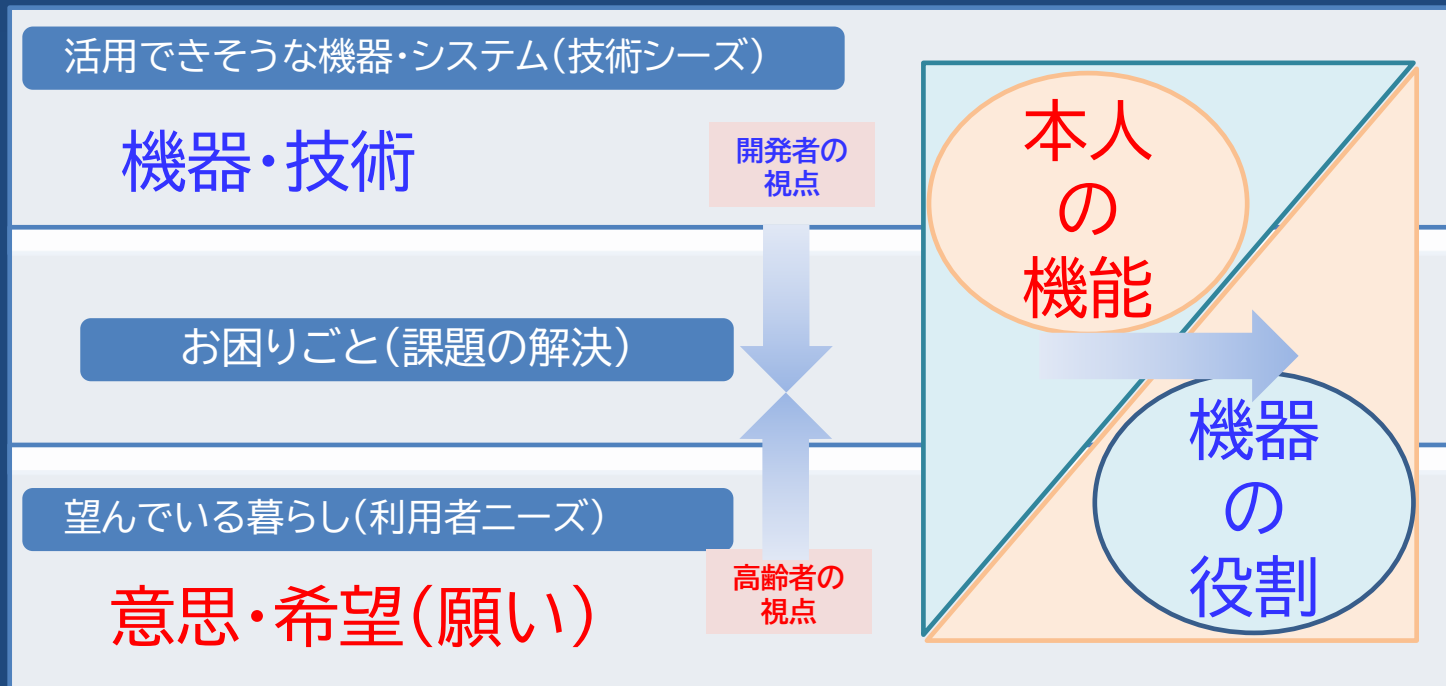
体温、位置情報、通話

主な内容

- テクノエイド協会の概要
- 少子高齢化の現状、今後の展開
- 介護テクノロジー等に関する施策の動向
- ニーズを踏まえた介護テクノロジーの開発と安全な利用



介護テクノロジー利用にあたっての基本的考え方



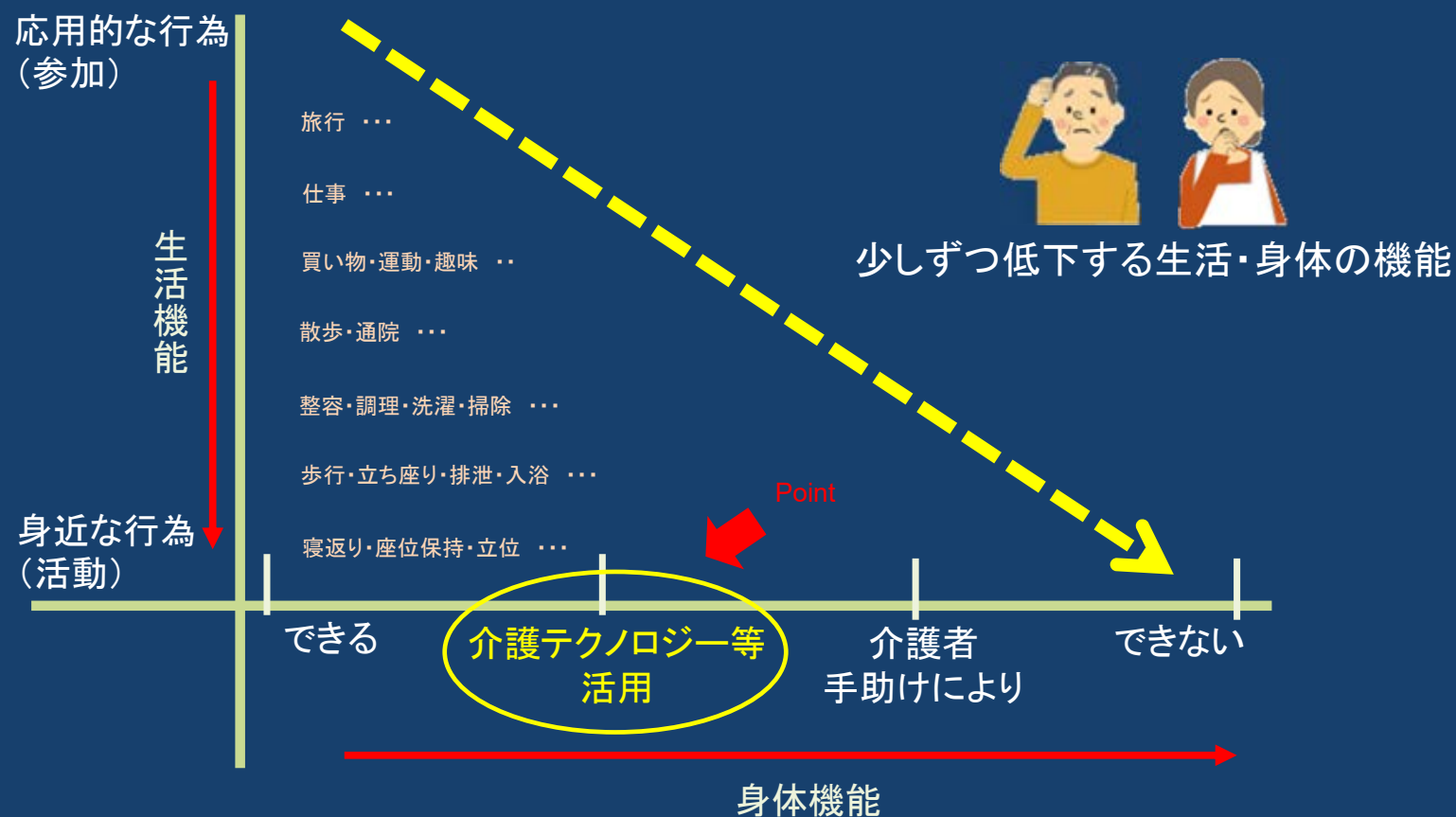
福祉用具等は、利用が目的ではなく、課題を解決する一つ的手段

- ・自己決定
- ・身体・生活機能の維持・向上
- ・安心・安全、重度化の防止 等

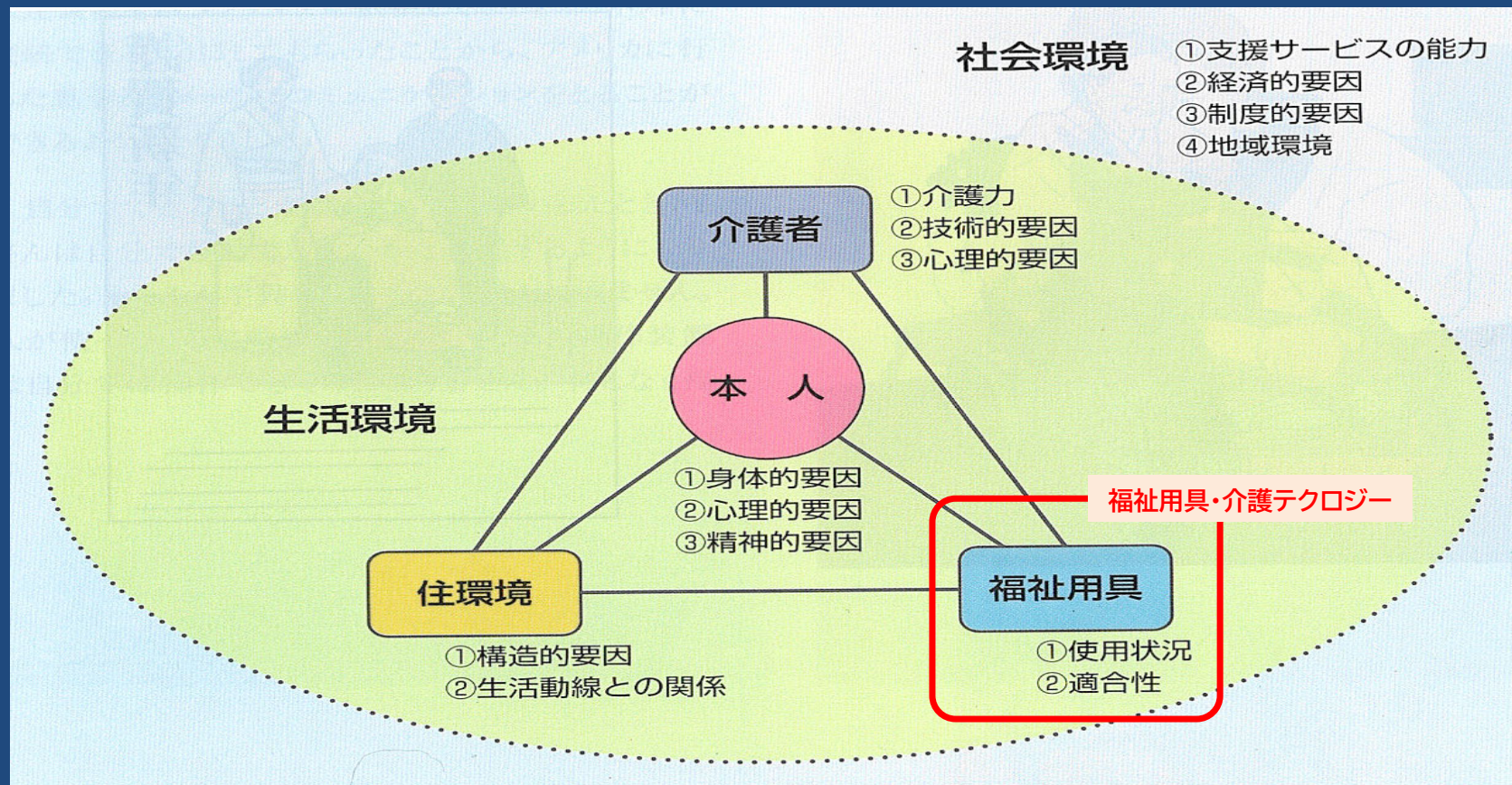
一方で、業務の効率化や利用者の安心・安全から、意識化・目的化することも求められる(使用にあたってのルール決めが必要)

考慮し、開発と利用を検討

高齢者から見た介護テクノロジー等活用のタイミング

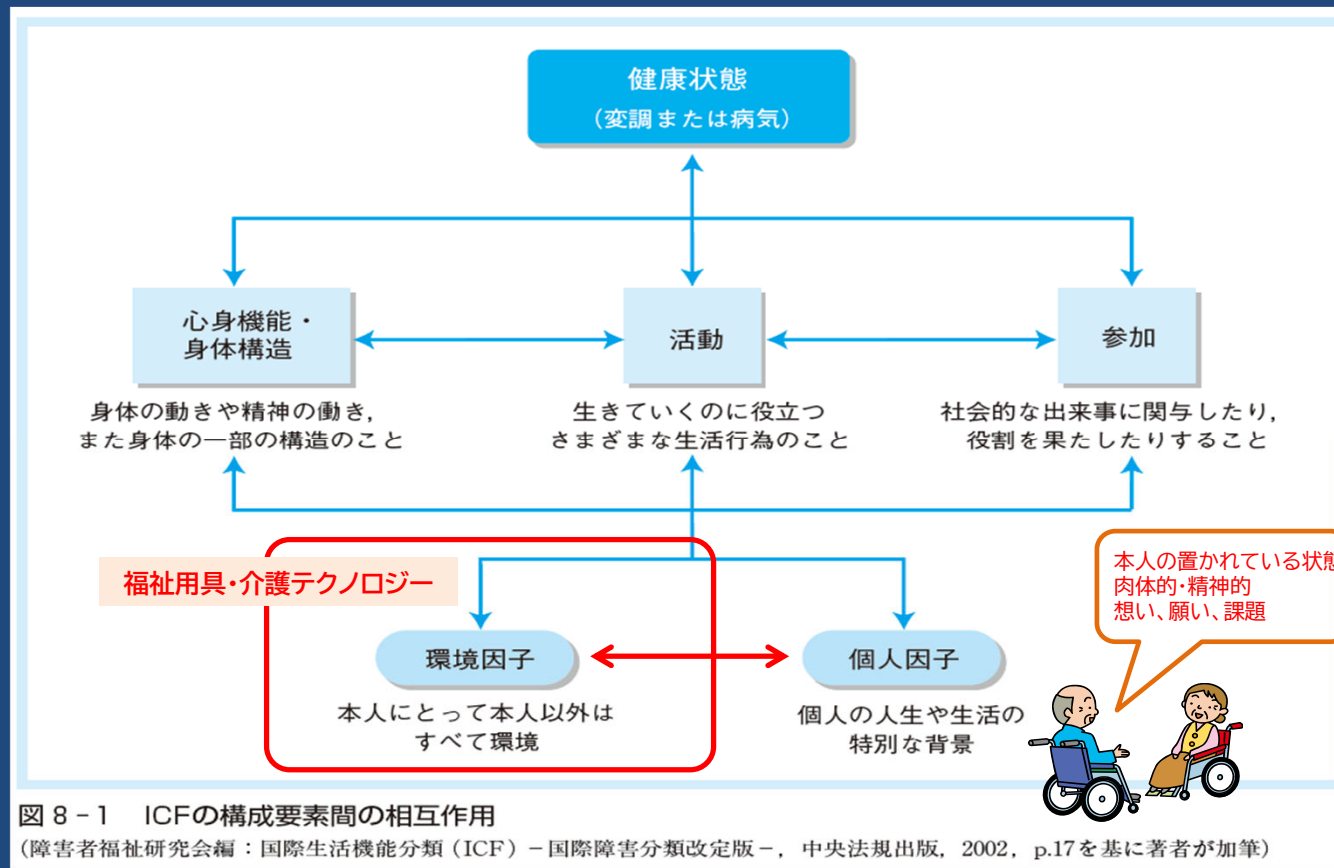


高齢者を中心に見た介護テクノロジー等活用の要因



高齢者から見た福祉用具・介護テクノロジー

(ICF:国際生活機能分類)



1. 利用目的の明確化(人・場面・目的)

2. 状態(ADL)の変化に対応

Point



利用者と開発者の観点の相違

〔利用者〕

※利用者の状態は千差万別

(パラダイムシフト)

新たな技術や機能を活用
・応用する視点

- 課題や改善策の有・無
- 活用可能な場面、適用範囲の明確化
- 開発者に対する要求整理



〔開発者〕

(現場との連携)

利用者ニーズの深堀
出口戦略

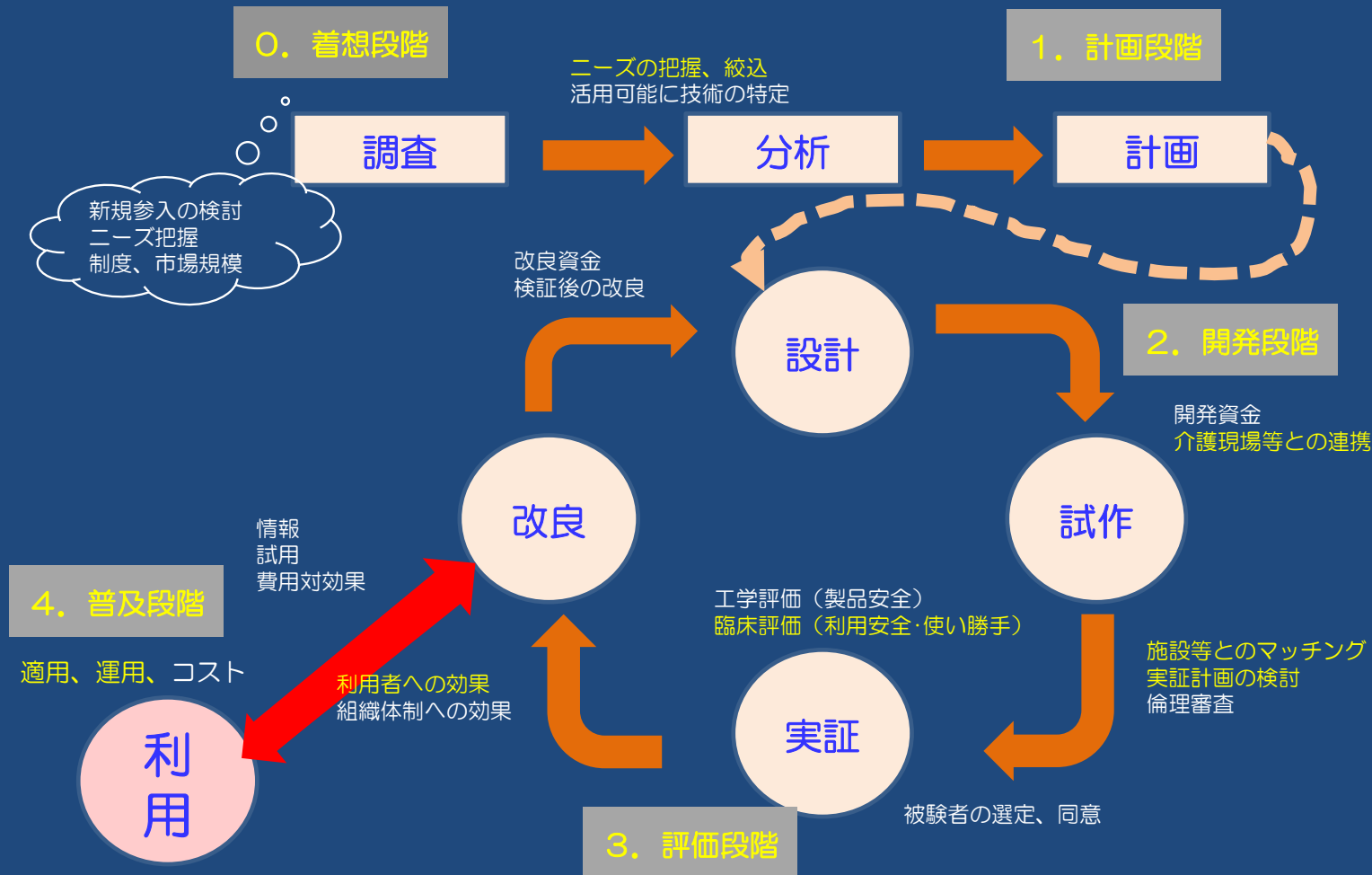
- 応用(適用)可能な技術の特定
- ターゲットユーザの明確化
- 運用方法とその効果の説明
- 利用者に対する要求整理



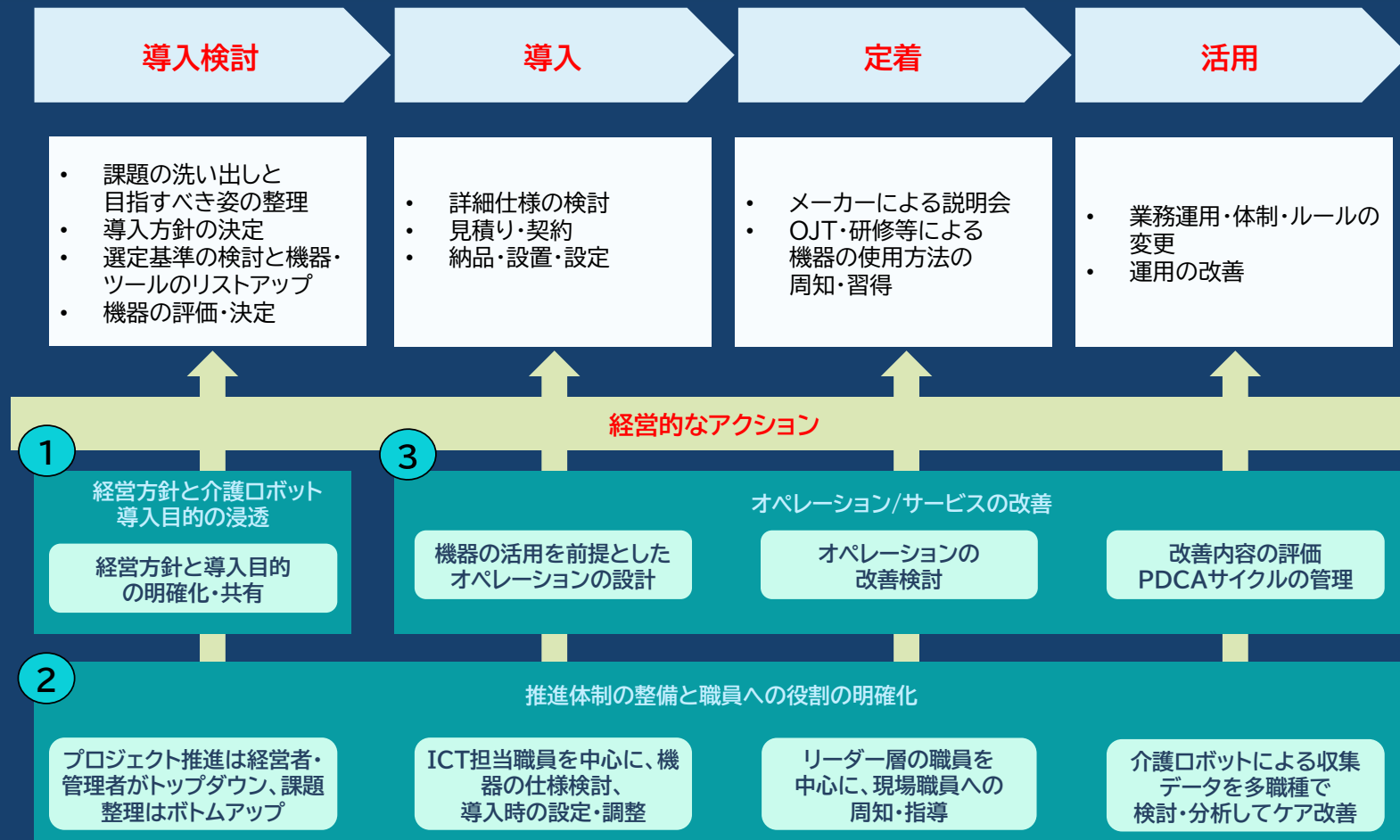
行動観察とインタビュー(単独・グループ)の繰り返し
モニター評価

開発の初期段階から、本格的な開発・利用に向けて
方向性を確認し、連携体制の構築する

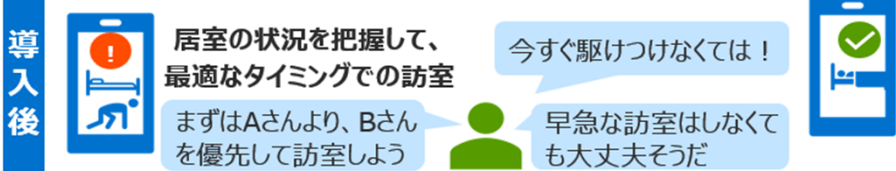
製品開発の着想から開発、実証、利用の流れ



効果的に利用するためのアクションプラン



見守り支援機器の導入、利活用のイメージ

基本的な導入の目的	運用イメージ
■ 夜間の定期的な訪室の負担軽減を図りたい ■ 居室の状態を把握したい ■ 転倒・転落時に早急な駆けつけを行いたい ■ 入所者の睡眠状態に合わせた訪室や起床介助がしたい	導入前  覚醒・睡眠や緊急度に限らず、頻度の多い定期巡回
実現方法	
見守り機器（センサータイプorカメラタイプ）を導入し、居室内の状態を把握した上で、訪室・駆けつけを行う	導入後  居室の状況を把握して、最適なタイミングでの訪室 今すぐ駆けつけなくてはいけません！ まずはAさんより、Bさんを優先して訪室しよう 早急な訪室はしなくても大丈夫そうだ
導入効果	
現場の変化・効果	期待される経営的な効果
■ 利用者の安全の確保・状態の把握 ✓ 転倒・転落等の事故を防止する ✓ 利用者の体調変化に早期に気づける ■ 職員の精神的な負担の軽減 ✓ 職員における業務中の安心感が増す ■ 業務オペレーションの変化 ✓ 訪室の優先度の把握ができる	■ 利用者視点での効果 ✓ 利用者QOLの向上につながる ✓ 利用者のADLや要介護度改善につながる ■ 職員・施設視点での効果 ✓ 利用者の入院が減少し、空きベッド/空室が減少する ✓ 職員の定着率が改善する（離職防止につながる） ✓ 先進的な取組を通じた、施設の認知度・評価等が向上する（ブランディング効果）

福祉用具・介護テクノロジー実用化支援事業 (一部紹介)

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

Welcome to association for technical aids' home page

サイト内検索 検索 協会紹介 アクセス リンク・著作権・免責事項 運営方針 情報公開 賛助会員 リンク集 事業一覧 各種システム 調査研究

福祉用具・介護テクノロジー 実用化支援事業

福祉用具・介護テクノロジーの
開発と**普及**を促進する
取り組みを実施しています

新しい介護のカタチがここにある！

お知らせ NEW!!

- 2025.07.07 (お知らせ)「自立支援機器イノベーション人材育成事業」に係る受講者の募集(厚生労働省・補助事業)
- 2025.07.04 【外部リンク】「介護現場のニーズに対応した製品開発支援事業」の実施について(東京都中小企業振興公社)
- 2025.07.04 【外部リンク】「高齢者向け新ビジネス創出支援事業」の実施について(東京都中小企業振興公社)
- 2025.07.02 【外部リンク】令和7年度「情報バリアフリー役務提供事業推進助成金」の交付決定

自立支援機器を活用する就労支援プロジェクト

- 2025.07.07 公募説明会の動画を掲載しました **NEW!!**
- 2025.05.12 自立支援機器を活用する就労支援プロジェクトの公募について
- 2025.05.12 公募説明会の開催について

福祉用具・介護テクノロジー実用化支援事業(厚生労働省) NEW!!

- 2025.07.01 介護機器の安全利用に関する整理・報告・発信について **NEW!!**
- 2025.06.27 介護テクノロジーの開発・導入助成制度の調査について **NEW!!**
- 2025.06.18 介護テクノロジー 意見交換・専門職によるアドバイス・モニター調査事業について **NEW!!**
- 2025.05.16 介護テクノロジー メーカー連絡会議について

補聴器関係はこちら

認定補聴器技術者

**福祉用具プランナー
情報システム**

福祉用具 NEW!
eラーニング講座
(どなたでも受講できます)

福祉用具 NEW!
「事故・ヒヤリハット」情報

福祉用具情報システム (TAIS) NEW!

- ・用具検索 (18,004件)
- ・企業検索 (847社)
- ・TAISへの情報登録



<https://www.techno-aids.or.jp/>

事業の 背景・概要		試用貸出 リスト	試用貸出 事業	開発・導入 の助成 NEW	導入支援等 状況調査	メーカー 連絡会議
アドバイス・ モニター調査 NEW!!	活用 ミーティング	シンポジウム		安全利用 整理・報告・発信 NEW	開発・実証 フィールドの募集	相談窓口/ お問い合わせ

お知らせトピックス

- ▶ [事業の背景・概要](#)
- ▶ [介護テクノロジーの試用貸出リスト](#)
- ▶ [介護テクノロジー等の試用貸出事業](#)
- ▶ [介護テクノロジー等の開発・導入助成制度の調査](#) NEW!!
- ▶ [介護テクノロジー導入支援事業等の実施状況調査](#)
- ▶ [介護テクノロジーメーカー連絡会議](#)
- ▶ [意見交換・専門職によるアドバイス・モニター調査事業](#) NEW!!
- ▶ [介護テクノロジー等活用ミーティングの開催](#)
- ▶ [介護テクノロジー等シンポジウムの開催](#)
- ▶ [介護機器の安全利用に関する整理・報告・発信](#) NEW!!
- ▶ [開発・実証フィールドの募集](#)
- ▶ [相談窓口の設置・お問い合わせ](#)

事業の背景・概要

生産年齢人口が減少していく一方、介護ニーズが増大していく中で、介護人材の確保は喫緊の課題であり、介護職員の働く環境改善を図り、さらには質の高いサービスを効率的に提供するため、介護現場へのテクノロジーの導入は重要です。



<https://www.techno-aids.or.jp/robot/jigyo.shtml>

介護テクノロジー試用貸出リストの作成 (生産性向上総合相談センター等において活用)

試用貸出が可能な介護テクノロジーの製品概要を掲載している

E-04 トーテックアメニティ(株)

TAIS 02224 - 000001

見守りライフ

ベッド脚に取り付けるだけで、すぐに導入できる見守りシステムです。荷重センサーとカメラにより、人の手に頼りがちな見守り業務を効率化。職員の仕事・身体的負担を軽減します。業界トップクラスの検知スピードで、転倒・転落事故の防止に貢献。さらに、ベッド上で体重測定ができる「体重測定機能」も搭載しています。



製品
カタログ

取扱
説明書

使用方法
等の動画

トーテックアメニティ(株) 見守りライフ推進室
〒163-0417 東京都新宿区西新宿2-1-1新道三井ビルディング 17F
TEL: 03-5657-3216 MAIL: mlife@totec.co.jp

E-05 キング通信工業(株)

TAIS 01558 - 000004

シルエット見守りセンサ WOS-321

起き上がり/はみ出し/離床を区別して検知し、Wi-Fi 環境を用いてタブレット端末やPC等にお知らせします。センサ1台からの運用が可能で、居室に行かずにタブレット端末等から、利用者の様子をシルエット画像で確認する事ができ、見守る側、見守られる側双方の負担軽減に役立ちます。



製品
カタログ

取扱
説明書

使用方法
等の動画

キング通信工業(株) 営業推進課
〒158-0092 東京都世田谷区野毛2-6-6
TEL: 03-3705-8113 MAIL: contact@king-tsushin.co.jp

詳細情報はTAIS
とリンク

メーカー名
製品名
TAISコード
製品概要
カタログ
取扱説明書
使用方法
問合せ先



福祉用具・介護テクノロジー試用貸出事業(直接、開発企業へ問い合わせ)

福祉用具を含め、試用貸出が可能な製品を紹介している

貸出機器情報

※下記一覧の貸出欄に“○”が付いているものが貸出可能な機器となります。

※機器の貸出を希望される場合は、詳細情報PDFに記載の「メーカー問合せ先」へ直接お申し込みください。

※貸出の条件(期間、料金など)はメーカーや機器ごとに異なります。詳細は直接メーカーへお問い合わせください。

【一時貸出】・・・イベントや研修会等での数日間の貸出

【試用貸出】・・・機器の導入を前提とした長期間の貸出

011 移乗支援(装着) (8件)
022 移動支援(屋内) (2件)
032 排泄支援(排泄予測・検知) (2件)
043 見守り支援(兼用) (8件)
070 機能訓練支援 (5件)
100 食事・栄養管理支援 (0件)
130 介護業務支援(掃除、...) (2件)
160 聴覚支援 (2件)

012 移乗支援(非装着) (16件)
023 移動支援(装着) (0件)
033 排泄支援(動作支援) (3件)
050 入浴支援 (4件)
080 服薬支援 (0件)
110 口腔ケア支援 (1件)
140 体位変換・床ずれ予防支援 (1件)
170 視覚支援 (0件)

021 移動支援(屋外) (1件)
031 排泄支援(排泄物処理) (2件)
041 見守り支援(施設) (27件)
060 コミュニケーション支援 (4件)
090 認知症生活支援・ケア支援 (1件)
120 介護業務支援(情報共有、...) (5件)
150 レクリエーション (2件)
300 その他 (1件)

フリーワード

検索

クリア

登録No.	製品画像	機器名称/メーカー名	主な特長	詳細情報/動画	一時貸出	試用貸出
011 移乗支援(装着) 戻る						
011-240084		Apogee+(アボジー・プラス) パワースーツ GBS株式会社	German Bionicの第6世代製品となる移乗用パワースーツ Apogee+(アボジー・プラス)は、最大30Kgの持ち上げ支援を提供する国内で入手可能な機器として最もパワフルな製品です。	 	○	○
011-240082		介護専用アシストスーツ J-PAS fleairy (ジェイパス フレアリー)	装着者の動きを検知し、モーターでアシスト力の調整を可能とするアクティブ型アシストスーツで、複合的な連続する作業動作に対応し、長時間の作業でも疲労感を軽減。		-	○



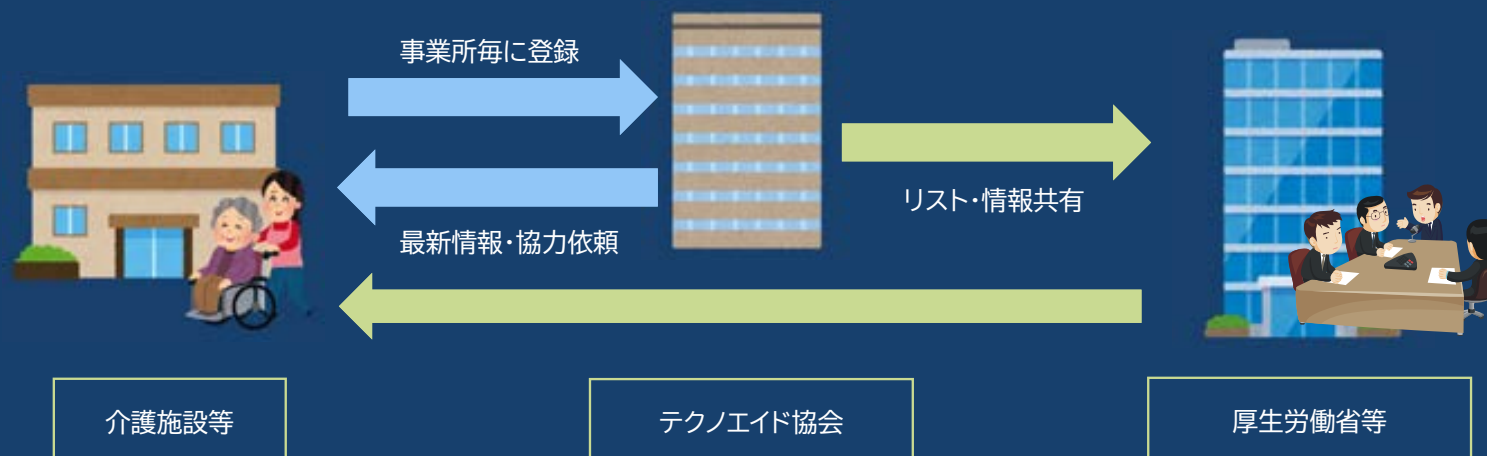
TAISの製品
情報と相互
連携

福祉用具・介護テクノロジー開発・実証フィールドの整備

アドバイスやモニター調査、実証等に協力する意向のある施設等を登録している

目的

介護ロボット等の開発・実証フィールドを募集し、介護ロボット等の開発及び、効果の検証等をより一層推進することを目的とする。



区分	件数
1. 介護施設等	1,263 件
2. 都道府県・市町村	51 件
合 計	1,314 件

令和7年7月現在

【リストの活用】

- 介護テクノロジーの最新情報を提供
- 登録情報は厚生労働省等と共有
- 利用効果の検証
- 活用ミーティングへの参加 等



介護施設・事業所・リハビリテーションセンター等の皆様へ

福祉用具・介護テクノロジー 開発・実証フィールド の募集(登録のお願い)

福祉用具・介護テクノロジーの開発・普及に
かわる情報を提供します

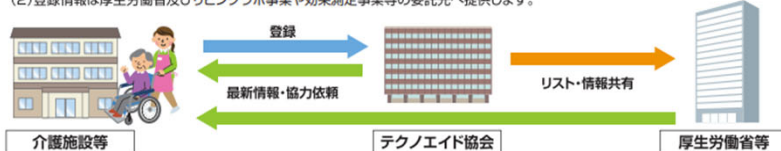
募集する介護施設等

介護保険の施設・居宅サービス 関係事業者 等

- ・登録はサービス事業所単位となります。
- ・介護保険以外の医療機関や障害者施設・居宅サービスの事業者も登録可能です。

登録リストの活用

- (1)当協会や厚生労働省等から各事業の案内や介護テクノロジーに関する最新情報をメールにて配信します。
- (2)登録情報は厚生労働省及びびびるラボ事業や効果測定事業等の委託先へ提供します。



登録方法

※PCから登録をお願いします

右記 <https://www.techno-aids.or.jp/robot/> テクノ 開発・実証フィールド 検索 から
次のボタンをクリックして、登録を行ってください

介護施設・居宅サービス事業所、
リハビリテーションセンター
等の方はこちら

都道府県、市町村、介護実習・普及センター
地域包括支援センター
等の方はこちら

※一時保存できないため、あらかじめ入力内容をご確認ください

お問い合わせ先

公益財団法人 テクノイド協会 企画部
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階

TEL 03-3266-6883
Mail monitor@techno-aids.or.jp

公益財団法人 テクノイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

福祉用具・介護テクノロジーの 開発・実証フィールドを募集します

背景・目的

日本の高齢化は世界に例を見ない速度で進行しており、高齢者の自立支援と介護者の負担軽減、さらに質の高い介護サービスを効果的に行うためには、テクノロジーやICT等の技術を用いた福祉用具・介護テクノロジー(介護テクノロジー等)の開発と利活用が不可欠です。

厚生労働省では「介護テクノロジー導入支援事業」において、介護現場への介護テクノロジー等の導入支援を行っているところですが、介護現場のニーズを踏まえた開発や有効性の検証等を促進するためには、介護現場と開発企業等の連携がより一層必要とされています。

こうした背景を踏まえ、テクノイド協会では、介護テクノロジー等の開発・実証フィールドを募集し、介護テクノロジー等の開発及び、効果の検証等をより一層推進することを目的としております。

本事業の趣旨をご理解いただき、賛同いただける介護保険の施設・居宅サービス等の関係事業者様におかれましては、ご登録いただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。



介護テクノロジーの開発・実証フィールドとは?

これまでと同様ですが、福祉用具・介護テクノロジー実用化支援事業において、開発中や上市して間もない介護テクノロジー等に対する意見交換やアドバイス、モニター調査に協力する意向を示していただいている介護施設や事業所となります。

また、実証フィールドとは、開発中の介護テクノロジーの安全性や使用効果の評価・検証等に協力する意向を示していただける介護施設等とさせていただきます。

どちらも個別の案件がある度に、事務局よりメールにて情報配信させていただきます。最終的には当該案件の内容をご確認いただき、協力の可否を判断していただければと思います。

登録対象のサービス種別等

① 介護施設、居宅サービス事業所、リハビリテーションセンター等

1. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
2. 介護老人保健施設
3. 介護療養型医療施設
4. 介護医療院
5. 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
6. 特定施設入居者生活介護
7. 小規模多機能型居宅介護
8. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
9. 地域密着型特定施設入所者生活介護
10. 看護小規模多機能型居宅介護
11. 養護老人ホーム
12. 軽費老人ホーム
13. 有料老人ホーム
14. サービス付き高齢者向け住宅
15. 在宅介護サービス
16. 訪問介護・看護
17. 通所介護施設(デイサービス)
18. ショートステイ
19. 医療機関
20. リハビリテーション
21. 障害者福祉
22. 福祉用具貸与
23. その他

② 都道府県、市町村等

1. 都道府県
2. 市町村
3. 介護実習・普及センター
4. 地域包括支援センター
5. その他

関連資料

福祉用具・介護テクノロジー実用化
支援事業 専用ホームページ



福祉用具
開発・実証
(登録のお願い)

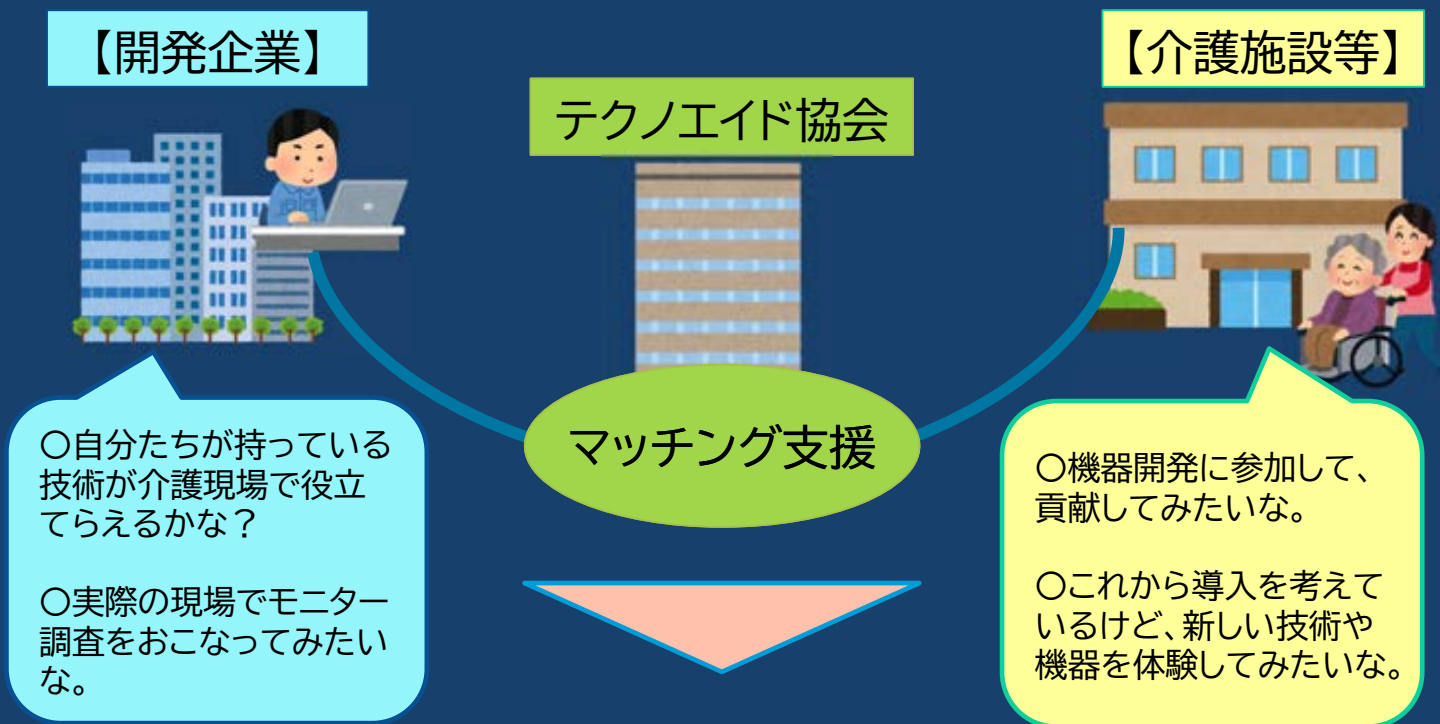


公益財団法人 テクノイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

R7.5月作成

介護施設・事業所と開発企業のマッチングを図る

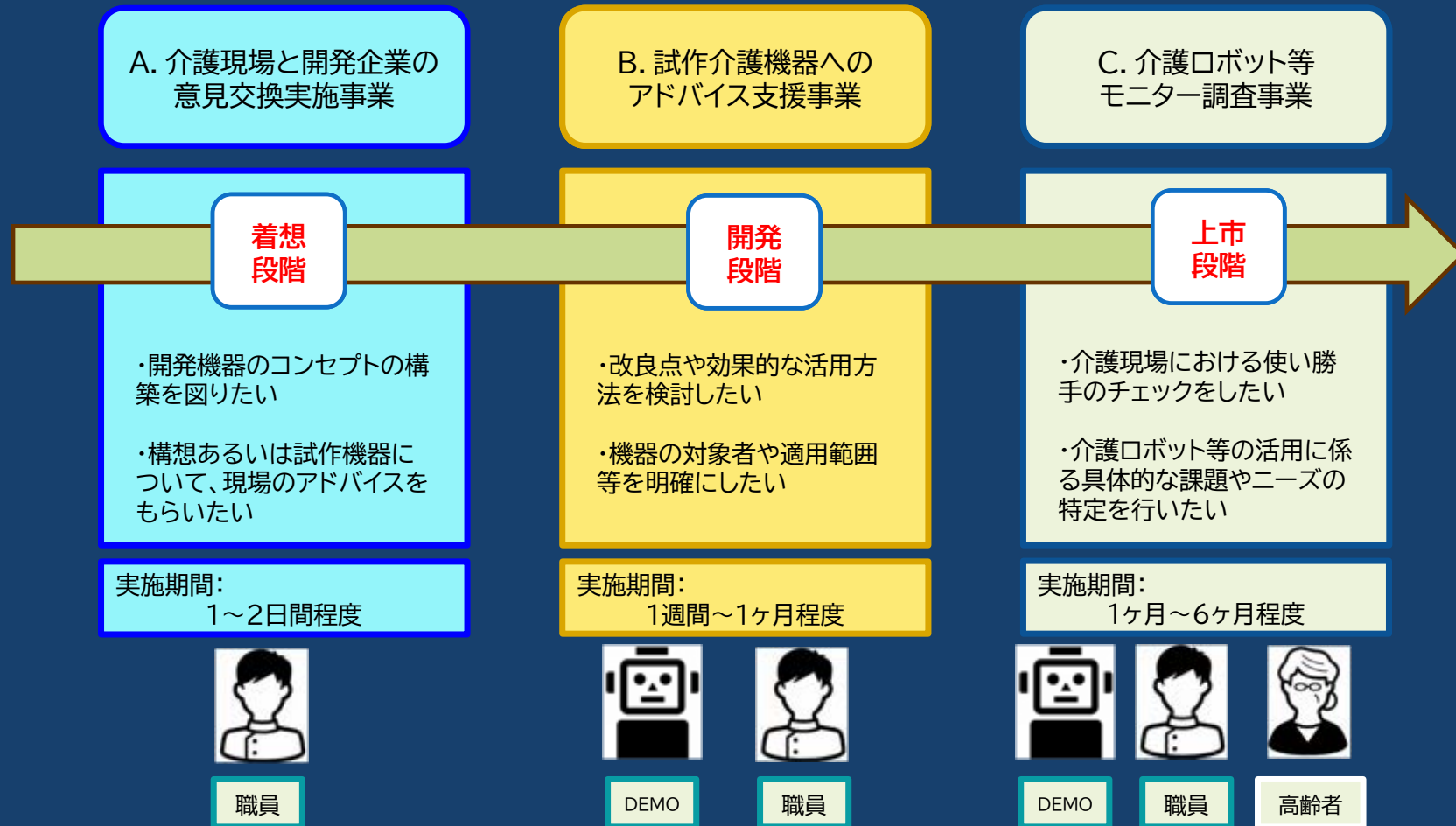
利用者のニーズを踏まえた製品の開発・改良に繋げる



介護現場のニーズに適した実用性の高い介護ロボットの開発が促進されるよう、開発の早い段階から現場のニーズの伝達や試作機器について介護現場でのモニター調査等を行い、介護ロボットの実用化を促す環境を整備する。

開発段階に応じた3つの事業を実施

新規参入の促進、試作機等に対するアドバイス、介護施設等でのモニターの実施



各事業へ参加することのメリット

【開発企業側】



・企業が持っているシーズを活かすための方法を確認することができる。

・現場の生の声を聞くことができる。

・開発中の試作機器を試し使いしてもらうことができる。

・施設と繋がりを持つことができ、モニターや実証の場が広がる。

・成果報告の冊子に掲載されるので、幅広くPRすることができる。

【介護施設側】



・最新の福祉用具・介護テクノロジーに触れることができる。

・現場の声を企業に伝えることができる。

・福祉用具・介護テクノロジーへの職員の関心を高めることができる。

・国の事業に参加することで、職業意識(モチベーション)や施設の魅力を高めることができる。

・実証協力費を得ることができる。

専門職が評価している場面



モニター調査等の成果報告

開発状況についての最新情報を提供している

開発と普及(電子書籍)

介護ロボット全国フォーラム

服薬業務の主な流れ(調剤業務から服薬介助まで)

「介護施設における薬の仕分け、配薬ミス削減・生産性向上に資する製品・システムの社会実装」

エトリア株式会社 徳植 義人氏

薬局様で調剤をして一包装したお薬を施設様にお届けし、その後、施設様の方で看護師が一人一人入居者の日別・用法別に仕分けをされて

パラマウントベッドが取り組む介護のデジタル化

様々な機器と連携して機能を拡張していきます。

福祉用具・介護ロボットの開発と普及 2024

厚生労働省

本書は、開発のコンセプト段階から実用化手前の機器において、専門職からのアドバイスやモニター手法および、その結果(概要)を記載しており、今後、本分野に参入する企業等の一助となるよう情報を収録している。



第4章 介護ロボット等モニター調査事業

モニター調査の概要

「モニター調査」は、介護ロボットの開発・普及を支援するための事業です。開発者・事業者が、モニター調査を実施し、開発・普及の促進を図ります。

モニター調査の目的

- 開発者・事業者が、開発・普及の促進を図る。
- 開発者・事業者が、開発・普及の促進を図る。

モニター調査の手法

モニター調査は、開発者・事業者が、開発・普及の促進を図るための手法です。

介護テクノロジー等活用ミーティングの開催

介護施設・事業所の方々による介護テクノロジーの効果、課題、対策など
自由な意見・情報交換、共有する場として開催

目的

介護テクノロジー等の導入・利活用にあたっての工夫や課題を共有化し、介護現場における介護ロボット等の効果的な活用を促し、働きやすい職場環境の構築を目的とする。

11月				
5日(火)	6日(水)	7日(木)	11日(月)	12日(火)
オンライン開催を予定				
13時～15時				
開催テーマ				
A	B	C	D	E
介護機器等を活用した生産性向上の取組みを推進しよう	介護機器等を活用した安心・安全な介護を実現しよう	介護機器等を活用するICT/DX化を推進しよう	デイサービス等における訓練・介護機器等の導入・利活用を考えよう	居宅介護サービスにおける介護機器及びICTの導入・利活用を考えよう

【参加者数】

5日	6日	7日	11日	12日
284名	204名	225名	144名	131名

セッション1

- 介護テクノロジー等に関する最新情報
厚生労働省
- 介護ロボットの開発・実証・普及の
プラットフォーム 生産性向上の取り組み
NTTデータ経営研究所
- 利活用に伴う工夫や課題、アイデア等
介護施設・企業等

個人ワーク

- 現状と課題、発言内容の整理

セッション2

- フリーに意見交換や情報交換を実施

介護ロボット全国フォーラムの開催

昨年実績

開発メーカー、介護施設等、研究機関、産業振興機関等による介護テクノロジーの開発・普及にかかる成果報告の場

厚生労働省「福祉用具・介護ロボット実用化支援事業」

介護ロボット 全国フォーラム

テクノロジーを活用した介護現場の生産性向上を考えよう

令和7年
1/31 金
11:00~16:30

参加費
無料
入場自由

開催場所
TOC有明
(東京都江東区有明)
4階コンベンションホール
WESTおよびEASTホール
<https://www.toc-ariake.jp/>

WESTホール

最新機器の展示、体験、デモ、相談 (11:00~16:30)

高齢者や障害者の自立や介助、介護者の業務を支援する介護ロボットを中心に、製品化され相応ほか(40社の実績を展示)



EASTホール

シンポジウム (13:00~16:10)

介護ロボットに係る重点政策及び、事業の成果、先進事例の報告等を行います。(入退室自由)

13:00	開会	挨拶 公益財団法人テクノエイド協会 常務理事 栗野 泰弘 司会 公益財団法人テクノエイド協会
13:10-13:50 (50分)	行状報告	『テクノロジー等を活用した介護現場における生産性向上に関する最新動向』 厚生労働省 老健局 高齢者支援課 課長 藤村 浩司 氏
13:50-14:00	行状報告	『経済産業省における福祉機器の施策動向』 経済産業省 商務・サービスグループ 基幹・福祉機器産業室 室長 渡辺 悠希 氏
14:00-14:40 (50分)	行状報告	『福祉用具・介護ロボット実用化支援事業の実施について』 公益財団法人テクノエイド協会 会務部 伊東 由香 『介護ロボット等の開発・実証・普及広場のプラットフォーム事業の取組状況』 株式会社NTTデータ経営研究所 太刀川 遼 氏
14:40-14:50	休憩	
14:50-16:10 (50分)	行状報告	『テクノロジーを活用した新たな介護システムの構築、事例』 『介護施設向けタイムスタディアプリのモニター報告について』 『介護施設における業務の仕分け、配業ミスマッチ・生産性向上に資する製品・システムの社会実装』 『スタッフが本来の業務に集中できる環境づくりとその効果』 『業務報酬』をキーワードに介護現場のDX化を推進する
16:10	閉会	



最新
機器

政策

成果

事例

(参考) 令和6年度の開催はこちら



福祉用具・介護テクノロジーの利用安全に関する取り組み

関係省庁や都道府県、関係事業者団体等を連携して情報収集・提供している

「事故・ヒヤリハット情報」の情報収集を行っております

福祉用具「事故・ヒヤリハット」情報

最新の事故情報と安全な利用を推進するヒヤリハット情報を提供いたします

お知らせ NEW!

- 2025.07.07 [【お知らせ】「自立支援機器イノベーション人材育成事業」に係る受講者の募集](#)
- 2025.07.04 [【外部リンク】「介護現場のニーズに対応した製品開発支援事業」の実施について](#)
- 2025.07.04 [【外部リンク】「高齢者向け新ビジネス創出支援事業」の実施について（東京市）](#)
- 2025.07.02 [【外部リンク】令和7年度「情報バリアフリー役務提供事業推進助成金」の交付](#)

自立支援機器を活用する就労支援プロジェクト

- 2025.07.07 [公募説明会の動画を掲載しました NEW!!](#)
- 2025.05.12 [自立支援機器を活用する就労支援プロジェクトの公募について](#)
- 2025.05.12 [公募説明会の開催について](#)

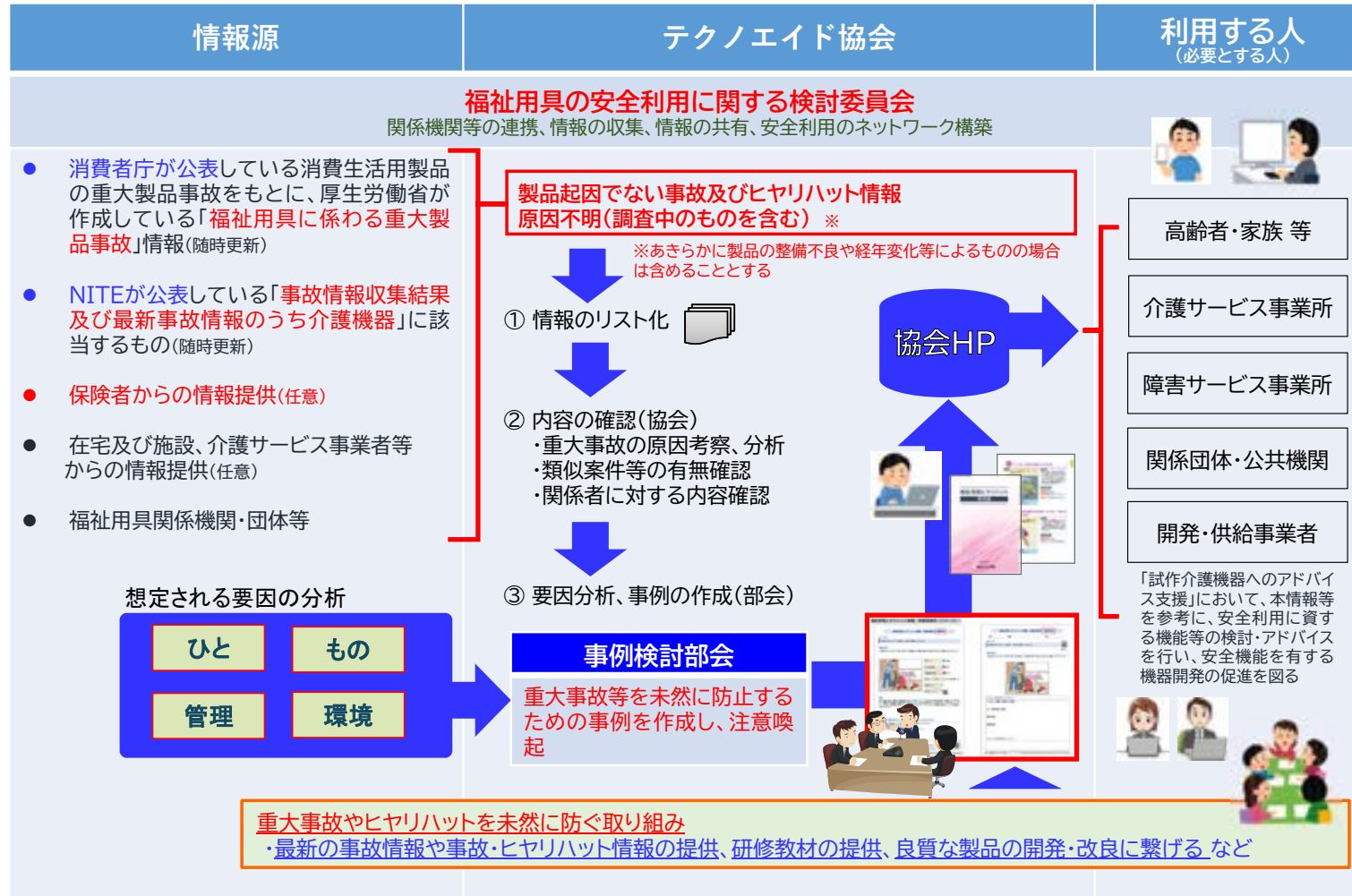
福祉用具・介護テクノロジー実用化支援事業（厚生労働省） NEW!!

- 2025.07.01 [介護機器の安全利用に関する整理・報告・発信について NEW!!](#)
- 2025.06.27 [介護テクノロジーの開発・導入助成制度の調査について NEW!!](#)
- 2025.06.18 [介護テクノロジー 意見交換・専門職によるアドバイス・モニター調査事業について NEW!!](#)
- 2025.05.16 [介護テクノロジー メーカー連絡会議について](#)

福祉用具関係はこちら

- [認定補聴器技術者](#)
- [福祉用具プランナー情報システム](#)
- [福祉用具 eラーニング講座（どなたでも受講できます）](#)
- [福祉用具「事故・ヒヤリハット」情報](#)
- [福祉用具情報システム（TAIS） NEW!](#)
 - [用具検索（18,004件）](#)
 - [企業検索（847社）](#)

福祉用具の利用安全に関する取り組み



重大事故に繋がる恐れのある事例(2)

○電動三・四輪車

ハンドル型電動車いすを操作中、集合住宅の上層階で、エレベータに向けて方向転換しようとしていたところ、誤って階段部分に脱輪、転落しそうになる

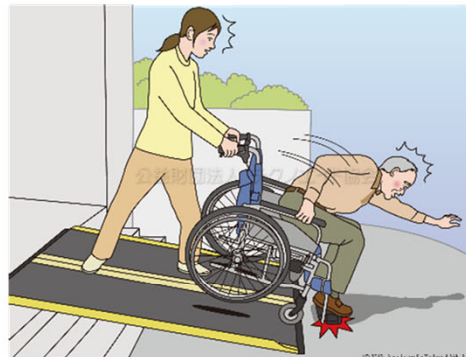


歩行の困難さや充電のため、集合住宅にある自宅の玄関先までハンドル型電動車いすで移動する必要があったのだと考えられます。階段付近などで切り返しを行なう際、ハンドルに取り付けられたバックミラーでは後進方向や床面の状況が映らず確認できません。狭いスペースで方向転換をする場合、とりまわしの練習などで安全を確認した上で納品し、日々の利用では介助者に後方を確認してもらうなど、十分に注意しましょう。

死亡

○携帯用スロープ

前向きで下りたため、フットサポートが地面にぶつかってしまった



スロープを下りるときには、車いすを後向きに介助することが基本です。それは万が一このような事象が起こっても、利用者が転落することを防げるという観点からです。どうしても前向きに介助したい場合は、フットサポート下の隙間が路面に干渉しないことを確認しましょう。

死亡

○見守り機器

心拍や呼吸を読み取るセンサーを利用している入居者が臥床しているのに離床と表示されたが、重大なものと認識せずに対応しなかった



心拍や呼吸を読み取るセンサーでは、それらが読み取れない状態を離床と判断し表示するケースがあります。入床しているにもかかわらず離床と表示されている場合は心拍や呼吸が停止している状態を示し、亡くなっていることも考えられ、入室してベッドサイドで状態を確認すべきです。見守りセンサーの利用では、機器の特性を理解し状態に応じて訪室での確認を必須にするなどマニュアル化しておくことも重要です。

福祉用具等の利用にかかわる事故及びヒヤリハット情報について、協会ホームページを通じて、広く情報発信している。

56

研修教材 利用シーンから探す

利用安全に関する知識の習得



起居・就寝 (93件)



移乗 (69件)



立ち座り (56件)



移動 (175件)



排泄 (19件)



入浴 (43件)



食事 (9件)



整容 (0件)



コミュニケーション (0件)



リモコン操作 (35件)



階段の昇り降り (20件)

ダウンロード	イメージ図	事例
☐		Case : 5 フットサポートが急に倒れ、身動きがとれず、前方へ転倒しそうになる
☐		Case : 7 ベッドへの移乗時、車いすのフットサポートに足が接触し、ケガをしそうになる
☐		Case : 9 ブレーキの効きが悪くなり、移乗時に転倒しそうになる
☐		Case : 10 利用者のつま先をベッドフレームにぶつけそうになる

受講者

解説

福祉用具ヒヤリハット 研修教材 (受講者用)

日付: 所属: 氏名:

Case : 11
急ブレーキをかけたため、利用者が前方に転落しそうになる

事例詳細

図表等にないこと

場面の説明

介助者が急いで車いすを押し、トイレ前で急ブレーキをかけたところ、利用者が前のめりになってしまった

場面の説明

介助者が急いで車いすを押し、トイレ前で急ブレーキをかけたところ、利用者が前のめりになってしまった

利用シーン

移動

主な利用場所

廊下

介護保険の種目

車いす

分類コード (CCTA95)

122103(介助用車いす)

介護ロボット

二次元バーコード

解説

Case : 11
急ブレーキをかけたため、利用者が前方に転落しそうになる

場面の説明

介助者が急いで車いすを押し、トイレ前で急ブレーキをかけたところ、利用者が前のめりになってしまった

参考要因 (要因の例であり、これだけが正解ということではありません)

人: 姿勢を保持することができない

人: 急な減速をした

モノ: 車いすが身体状況に合っていない

どのような要因が考えられますか?

どのような対策が必要でしょうか?

人 (本人・介護者・関係者) の要因	
モノ (福祉用具) の要因	
環境の要因	
管理の要因	
メモ	

主な原因
体験
対策の検討、議論

導入支援の対象となりうる製品情報の提供

都道府県や介護施設・事業所、開発メーカーや代理店等へ情報提供している



介護テクノロジーのカテゴリから探す

9分野 16項目



移乗支援（装着）



移乗支援（非装着）



移動支援（屋外）



移動支援（屋内）



移動支援（装着）



排泄支援（排泄物処理）



排泄支援（排泄予測・検知）



排泄支援（動作支援）



見守り・コミュニケーション（施設）



見守り・コミュニケーション（在宅）



見守り・コミュニケーション（コミュニケーション）



入浴支援



介護業務支援



機能訓練支援



食事・栄養管理支援



認知症生活支援・認知症ケア支援

本情報の取り扱い

当協会に設置する委員会により、厚生労働省が行う導入支援の対象となりうる製品選定を行い、該当すると判断されたものを掲載しております。（※）掲載している製品は、厚生労働省の導入支援事業にて各都道府県が実施している介護テクノロジーの導入支援を行う補助金の補助対象となる可能性があります。（掲載されていない製品の中にも補助対象となり得るものがありますので、詳細は各都道府県にお問い合わせください。）

また、情報は他の福祉用具と同様、メーカーから任意に提供されたものです。従って、協会が当該製品の安全性や有効性を保証するものではありません。導入を検討する場合は、当該施設等のサービスの状況や課題等を踏まえて、慎重に検討してください。すでに製品化されている介護テクノロジーはこれ以外にもあります。

（※）まずは試用貸出リストに掲載されている製品の分類コード（CCTA95）に該当するものについて審議しました。それ以外の分類コードに該当する製品及び新たに登録された製品につきましても、引き続き審議・掲載して参りますので、当該情報につきましては、あくまで現時点のものとして参考になしてください。

検討委員会の開催予定

6月、9月、12月、3月に開催予定

用具の詳細情報

22件の結果があります (1件目から表示/22件中)



株式会社イノフィス
マッスルスーツ Soft-Power
MS13-00

¥54,000

働く現場に、新しいスタンダードを。マッスルスーツSoft-Power(ソフトパワー)は、マッスルスーツシリーズで培ったアシスト技術をもとにしたサポートカと、快適性を追求し、衣服のような着心地...

分類コード 123089 TAISコード 01553-000018 発売年月 令和5年6月

詳細へ



株式会社イノフィス
マッスルスーツ Exo-Power:Mサイズ
MS11-M0-00

¥195,000

従来者の動作をアシストし、人や物を抱え上げたり、中腰姿勢を続けたりする際の身体負担を軽減。移動介助、およびベッドでの排泄介助、体位変換などで活躍し、介助者の腰への負担を軽減します。また、本製品...

分類コード 123089 TAISコード 01553-000016 発売年月 令和5年5月

詳細へ



株式会社イノフィス
マッスルスーツ Exo-Power:Sサイズ
MS11-S0-00

¥195,000

従来者の動作をアシストし、人や物を抱え上げたり、中腰姿勢を続けたりする際の身体負担を軽減。移動介助、およびベッドでの排泄介助、体位変換などで活躍し、介助者の腰への負担を軽減します。また、本製品...

分類コード 123089 TAISコード 01553-000017 発売年月 令和5年5月

詳細へ



ユービーアール株式会社
サポートジャケット Bb+ FIT (ケアタイプ)
SJ-FIT (C) -01

¥32,000

サポートジャケットBb+FIT WIDEに専用パーツを取り付けた、腰や身体負担を軽減する動力の無いアシストスーツ。当社は2010年からアシストスーツ事業を進めてきた業界内では老舗の企業です。...

分類コード 123089 TAISコード 01839-000005 発売年月 令和5年4月

詳細へ



株式会社イノフィス
マッスルスーツ GS-BACK:Sサイズ
MS10-S0-00

¥145,000

従来者の動作をアシストし、人や物を抱え上げたり、中腰姿勢を続けたりする際の身体負担を軽減。移動介助、およびベッドでの排泄介助、体位変換などで活躍し、介助者の腰への負担を軽減します。軽量かつコン...

分類コード 123089 TAISコード 01553-000014 発売年月 令和4年8月

詳細へ

福祉用具詳細

製品概要

株式会社ジェイバート
J-PAS fleairy (ジェイバス フレアリー)

TAISコード 02013-000002

発売年月 令和5年3月

希望小価格 ¥348,000

製品概要 製作を視覚してモーターでアシスト力の調整を可能とするアクティブタイプで、機能的な連結する作業動作に対応し、しっかりとしたアシスト感を提供。フレーム構造をもたない、ベルト着せし式により大開口作業を容易としました。作業中の姿勢保持のため、お尻の穴部分など中腰での作業作業における腰部の負担に高い軽減効果を発揮します。防水性もあり浴室作業も可能。また、希望分は洗濯できます。

このページをダウンロード

製品仕様・機能・性能等

カラー	ベージュ、黒
駆動方式	バッテリーによるモーター駆動 (リチウムイオン電池)
本体サイズ	幅 222mm×奥行 94mm×高さ 289mm
本体重量	1.5kg
材質	ABS樹脂、アルミ 他
連続使用時間	約4時間 (実用標準作業の場合)
安全性の確保	ISO13482 取得済み
防水防湿加工	IP55
アシストを電線する部位	腰
着用サイズ(ベスト)	身長145~160cm/ウエスト85~105cm 肩幅360~170cm/ウエスト75~115cm 身長170~185cm/ウエスト85~125cm
着用サイズ(胸囲ヘルム)	身長145~160cm 肩幅360~170cm

ご清聴、ありがとうございました

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 五島清国

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
セントラルプラザ4階

電話 03-3266-6883
電子メールアドレス goshima@techno-aids.or.jp